

Contents

- 学部長メッセージ.....2
- 海外留学特集 留学のすゝめ.....4～7
アドバイス / 体験談
- 2014 年の就職状況と 2015 年の展望.....8
- 就職活動体験記.....10～12
- 学科ニュース.....13～17
- TOPICS.....17
- 連載／卒業生インタビュー.....18～19
株式会社 水澤工務店 執行役員 工事部長 川嶋健史氏
- 平成 26 年度表彰学生.....20
- CAMPUS NEWS22
- 平成 27 年度行事予定.....23



表紙・裏表紙：
未来工房で自主制作をする学生たち

卒業生に贈るお祝いメッセージ

日本大学生産工学部 学部長 落合 実



平成 26 年度学部卒業生ならびに大学院修了生の皆さま卒業・修了誠におめでとうございます。ご家族の皆さまのお喜びもひとしおのことと心よりお慶び申し上げます。

現代社会はデジタル技術が進み全地球的規模であらゆる情報が共有され、社会や経済の構造が国と国との関係からグローバルな関係に遷移しています。また、我が国では少子高齢化と生産年齢人口の減少が社会や経済の多方面に悪い影響をおよぼしています。

グローバルな社会に対応した経済活動の再興のために国は「日本再興戦略」を打ち出しています。その中で大学には「グローバル化に対応できる人材力の強化」、産業界には「科学技術イノベーションの推進」を重点施策と位置づけています。社会は「グローバル化に対応できる人・技術者」を必要としています。

グローバル化というと「英語」と発想しますが英語はコミュニケーションの一つの手段です。グローバル化に対応できる人材とは、全世界・地球的な視野で社会、経済、技術、環境そして文化などについて考えることができる人、加えてそれらを議論できる人と考えます。当然、自分が生活する地域をはじめとした日本の文化・歴史について考えられる人です。

—— 現代社会で活躍する、活躍できる皆さん

大学では教養・基礎・専門の知識、工学技術や生産技術などを学びました。そして実社会では大学で学んだ知識と教養を基礎・基本としてそれらに応用することとなります。

学部を卒業するということ、大学院を修了するということは社会で活躍できるという最低の保証を大学が与えたということです。

我が国は「工業立国」、「技術創造立国」でありますので技術者、特に生産技術者を必要としています。そして技術者にはグローバル化に対応できる能力に加えて、ヒト・モノ・カネを管理できる能力も求められています。

言うまでもなく生産工学部は経営管理能力を備えた技術者を育成するという教育理念ですので現代社会が求める技術者を育てるカリキュラムを構築してあります。そのカリキュラムは実験や実習が多く設置され、経営管理や技術者倫理などの生産工学系科目、特に生産実習での企業実習そして卒業研究等々、生産工学部独自の内容であり、他大学・他学部にはない実学を重視したものです。このカリキュラムを履修し、本学での大学生活を通して皆さんには十分な社会人力が養われていると確信していますので、本学を卒業、修了した皆さんは誇りと自信を持って社会で羽ばたいてください。

—— 人生ではいろいろな経験をします

2011 年 3 月 11 日、東日本大震災の発生。皆さんがこれから歩んでゆく人生の中で忘れてはならない日です。

日本において観測史上最大級の地震である東北地方太平洋沖地震が発生しました。その地震によって津波も発生し、この地震と津波によって東日本一帯で大規模な災害が発生するとともに原発事故も起こりました。あの惨状を目の当りにし、「自然の力」の大きさを見せつけられ、この巨大な地震災害に対して何をすべきかを一人ひとりが真剣に考えたことと思います。この

ことは人生の中で貴重な体験であり、今後、人そして技術者として何を考え、行動すべきかを教えてくれたように思います。

—— 生産工学部、日本大学

生産工学部は昭和 27 年（1952）、工学部（現理工学部）工業経営学科を前身とし、昭和 41 年（1966）に生産工学部に改組されて現在に至っています。創設以来、経営管理能力を備えた技術者の育成を教育理念とし、産業界に最も近い工学系の学部として産業界の発展に大きく貢献しています。皆さんの活躍で生産工学部が支えられています。

日本大学は明治 22 年（1889）に創立された日本法律学校（現法学部）を前身とし、明治 36 年（1903）に日本大学に改称しています。そして初代司法大臣を務めた山田顕義伯爵を学祖と位置づけ、「日本精神にもとづき道統をたつとび、自主創造の気風をやしなう」ことなどを目的・使命としています。「自主創造」とは知的好奇心をもって自らが課題に取り組み、新しい道を切り開いていくことです。

—— 卒業、修了後は、日本大学のスケールメリットを大いに活用してください

日本大学は 125 年の歴史と約 110 万人の校友、そして生産工学部は 62 年の歴史と約 7 万人の校友がいます。日本大学の校友は卒業した皆さんを新しい社会人・校友の仲間として歓迎していますので、今後は多くの校友とのつながりを作って、協同・協働で社会に貢献していただきたいと存じます。

また、卒業生にとって生産工学部そして学科・研究室は母校ですので、いつでも訪ねて来てください。在学生に実社会の楽しさなどを語っていただければ幸いです。

日本大学の卒業生・修了生としての誇りと自信を持って世界に羽ばたき活躍されることを心より祈念して「卒業生に贈るメッセージ」といたします。

卒業そして修了おめでとうございます。



海外留学のすゝめ

数理情報工学科 教授 古市 昌一

皆さんご存知の通り、電機、自動車、ゲームをはじめとする日本の多くの企業のマーケットは世界です。海外の売上が8割以上を占める企業も珍しくありません。私は本学部へ赴任する前、電機メーカの研究所で28年間働いていました。新人時代は人工知能の研究、それを事業化するために交通シミュレータや宇宙・防衛用のシミュレーションシステムを開発していました。

社員はほとんど日本人でしたが、積極的に米国のスタンフォード大学、ジョージア工科大、MIT、仏国のENSICAなどから約半年間のインターンを受け入れる、そのような会社でした。

学部卒で入社した私は、20代の頃ほぼ毎年のように彼・彼女など大学院生と一緒にプロジェクトチームを組んで研究をすすめ、欧米の大学院生のパワーに圧倒され続け、いつか彼らを超えたいと思い続けていました。語学に関してはあまり自信がなくても、コンピューターの言語や数式等は万国共通なので、特に不自由は感じませんでした。

そんな時にやってきたチャンスが、会社の海外留学制度への合格。海外からのインターンの受け入れ経験が役にたったようです。しかし、そこからが実は大変で、希望校に合格するためには英語能力試験のTOEFLで基準点を超えるのは当然のことながら、専門分野(情報工学、数学など)の能力テストGREを合格点に達するまで繰り返し受験しました。そのために、会社に通いながらTOEFLとGREの予備校にも通い、米国の大学院へ入学するのはこんなに大変なのだと、大学受験の時と同様に約1年間受験勉強をしました。そしてやっと合格通知がもらえたのが、念願の並列計算機に関する研究で有名なイリノイ大学アーバナ・シャンペン校。

1992年8月から1994年2月までの1年半留学しました。同級生には現在のWebブラウザの原型であるMosaicを開発したマーク・アンドリーセンがいて、同じ講義を履修していたのを覚えています。

さて、前述した合格するまでの道のりを読んだ皆さんの中には、留学するのは大変だ、だからやめておこうと考えた皆さんも多いと思います。それは、私の場合は会社で働きながら予備校へ通って受験勉強をしたから大変だっただけで、学生の皆さんの場合は、いくらでも勉強する時間があります。

また、生産工学部の場合は米国のケント州立大学をはじめとする協定校があり、留学のためのサポートが充実しているので、私は学生の皆さんが羨ましいです。

そんなことよりも、

留学したことによる利点を皆さんにお伝えしましょう。一番良かったのは、生まれて初めてプール付き・サッカー場程の庭付きのアパートに住むことができたことでしょうか。その家賃は月額580ドルなので、本学周辺のアパートとほぼ同じだと思います。

それはそれとして、本当に良かったと実感したのは、留学から戻った後、会社での仕事がそれまでと比べて格段に面白く感じるようになったことです。

例えば、海外の企業と共同開発する時など、日本の多くの企業は間に通訳をはさむ場合が一般的です。しかし、私の場合、以前はそのような状況の場合に通訳を頼っていたものが、直接会話して仕事をできるようになっているのを実感しました。

もう一つ仕事で得をしたと感じたのが、英語の論文を読むスピードがとてつもなく向上したことです。

米国の大学では一晩に200ページ分ぐらい論文を読む宿題がザラなので、速読するコツが自然と身につきました。これは、最新の技術情報を収集するのにとても役立ち、この点では留学後他の社員に対して優越感を持てるようになりました。

一度しかない人生。そこにチャンスがあるならば、チャンスは活かした方が良い。そこに知らない国があるならば、そこへ行って見てきた方が良い。これが私の留学のすゝめです。



研究室前の古市教授



留学時代の指導教授と研究室の仲間達

オハイオ州ケントでの留学生活

環境安全工学科 4年生 山崎 卓人

私は生産工学部のケント州立大学への留学制度を利用し、2013年3月から12月までの9カ月以上をアメリカ、オハイオ州のケントで過ごしました。そこで私は、様々な国の人々との交流を通して、異文化体験などの貴重な経験ができました。この留学期間の中で、私には様々な失敗や成功がありました。それらの経験から、留学する際に大切だと思う2つのことを書きます。

1つ目に重要なことは、共通の話題をもつことです。留学に関係なく、人とのコミュニケーションの際には共通の話題が必要となってくるものだと思います。特にその共通の話題の中でも、「世界共通の話題」を持つことが、海外でのコミュニケーションをスムーズにさせます。例えば、世界中で知られている映画、音楽やスポーツの話題です。私の場合には、それがサッカーなどのスポーツでした。話し相手の英語が聞き取りにくい時でも、知識があるスポーツの話題であれば内容を理解することができました。また、多くの人が知っている話題のため、その話題を通してたくさんの人と交流することができました。一方で、日本の漫画やゲームは有名ですが、私はそれらに関して詳しい知識がありません。そのため、私が日本人だと知って漫画の話をしてきてくれる人が多くいましたが、あまり話題を膨らまることができなかったということもありました。世界中で話題になっているものの中で、自分の興味のあるものと一致するものがあれば、それが留学生活の武器になってくると思います。

2つ目に、頼れる人に頼ることが重要であると思います。外国語ができる、できないに関わらず、知らない土地で暮らし始めると、知らないことが多すぎて困ってしまう場面があります。私の場合ですと、現地で生活を始めたころは、大学内の建物のことであっても、何があるかわかりませんでした。そのため、目的地がわからないことが多く、人に聞かなければならない場面が毎日のようにありました。そして、英語でのコミュニケーションがうまくできませんでした。同じ人に自分が理解できるまで質問を続け、また知らない人に対しても質問するということをしました。その際、大概の人が快く質問に答えてくれました。質問をすることは、自分の疑問が解決されるだけでなく、質問から始まるコミュニケーションは語学の上達などにもつながる利点があると思

います。

また、海外でも日本人に頼ることは重要であると思います。留学したのだから、日本語を使うことは有益でないという考え方もあります。確かに、外国でも日本人と日本語だけで過ごすのでは、せっかく留学しているのにもったいないかもしれません。しかし、現地で長く過ごされている日本人の方のお話は、現地の外国人の方のお話と同じように価値のあるものです。また、英語でコミュニケーションが難しい時には、日本語で話せる人から情報を得る方が早く、たくさんの情報を得ることができる利点もあります。国籍や年齢に関わらず、疑問があるときは頼れる人に頼ることが大切であると思います。



各国の詩の発表会にて発表者と私

私は、海外留学ができて良かったと思っています。日本でも一人暮らしや外国人と接する機会をつくることは可能です。しかし、外国で1人暮らしをし、様々な考えを持った人々と過ごすという経験は大変に有意義であったと思っています。これから留学を考えている方は、外国語が話せるかどうか、外国での生活は大丈夫か、などと不安があるかもしれません。しかし、留学できるチャンスがあるならば、1度きりの人生ですので是非とも海外留学をしてほしいと思います。

最後に、私の留学を支援していただいたすべての方に感謝いたします。

グローバル化社会にはばたく卒業生に贈るアドバイス

JGC（日揮）Singapore Pte. Ltd. 取締役社長兼 CEO 田口 智朗

学部卒業生ならびに大学院修了生の皆様、ご卒業・修了誠におめでとうございます。現在、皆様は、社会の至るところで、また、ありとあらゆる分野で、グローバルリーダーとして大いに活躍が可能なスタートラインに到達したところで、今後、皆様は、国内・海外を問わず、様々な場所へ活躍の場所を移されると思います。どこに居ようとも活躍の場はすぐそばにあることを忘れずに、ためらうことなくスタートラインからの一歩を踏み出してください。

現在、皆様が立っているスタートラインの向こう側には、グローバル社会が待ち受けています。「グローバル」という言葉を耳にただけで、海外に活躍の場を求めない人は拒否反応を起こすかもしれませんが、そもそもグローバル化とは、ハイコンテキスト（共有性が高い文化のことで、伝える努力やスキルがなくても、お互いに相手の意図を察しあうことで、何となく通じてしまう環境のこと。）社会が、ローコンテキスト（ハイコンテキストの逆）社会へ転換していく過程の一環です。



メジャーオイルカンパニーとのプロジェクト調印式の様子 @Malaysia



社員が一同に介した Safety Day Event での Opening Remarks



これは皆様の身の回りにおいても起きている事象であり、一例を挙げるとするならば、日本人同士であっても、価値観が多様化し、世代や趣味が違えば「話が通じない」などの関係が増えているのと同じことです。皆様はこれら事象に対応する能力を身に付けつつあり、グローバル化とは、さらにこの能力を発展させ、経験・知識・価値観・人生観・倫理観、その他宗教や歴史など全てが異なり、さらにお互いに偏見を持ちあっている現実もある、究極のローコンテキスト社会へ対応する能力です。単なる知識や語学力ではなく、「ハイコンテキストなものをローコンテキストに翻訳する能力」が必要となります。

現在、日本の本社が設立したシンガポール現地法人の舵取りをしておりますが、この会社には、12カ国籍から成る約300名のナショナルスタッフが在籍しています。

12カ国籍のナショナルスタッフの国々は、各国の成り立ち・歴史や現在の発展のステージ、民族・宗教・言語や文化・労働観はそれぞれ異なっておりますが、ナショナルスタッフのお互いが尊重し合い、共生していることを実感することが出来ます。彼らと日本人の違い、それは“Speak up”していることです。

日本には「沈黙は金」という諺がありますが、これは海外のビジネスでは通用しません。これからの皆様にとって大事なことは、“Speak up to someone”です。今後のご活躍を祈念し、学部卒業生ならびに大学院修了生の皆様へのメッセージとさせていただきます。



ナショナルスタッフとのミーティングの様子

海外勤務体験記

清水建設株式会社国際支店 大貫 雅也

今回、海外勤務体験記・海外留学のすゝめの寄稿依頼をいただき、私の海外勤務体験を皆さんへ紹介させていただきます。

はじめに、私の経歴ですが、平成16年に生産工学部建築工学科を卒業後そのまま大学院に進学し、平成18年に建築工学専攻博士前期課程を修了しました。学生時代、アメリカでの国際学会で口答発表は行いましたが留学経験はありません。

修了後は清水建設株式会社へ入社し、しばらくは現場施工担当として東京で7年間勤務しました。そして、かねてからの希望がかない、平成24年4月より海外勤務となりました。まずシンガポール（2カ月）、ベトナム・ホーチミン（1年半）を経て、現在はフィリピン・マニラで勤務しております。

海外勤務というと、①英語は得意でしたか？ ②海外生活はどうですか？ という質問をよく受けます。

①で言えば、中学英語が分かっていたら問題ありません。教科書でいう文法が成り立っていないでも単語でコミュニケーションは十分可能です。むしろきちんとした英語を話さないといけないと萎縮しないことが重要です。②で言えば、個人差はありますが、私の場合は住めば都で、十分楽しんでおります。日本とは違う生活慣習は新鮮です。

海外勤務になり3年が経過しますが、海外での生活を経験してみたいという気持ちがあれば実行に移るのがよいと思います。現地スタッフとともに目標に向け、共働することはやりがいがあります。

世界のどこかで皆さんと一緒にできることを楽しみにしております。



ベトナムでの担当物件



「A ri ga to go za i ma su」 Thank you very much!!
I never forget shimizu vietnam life. (二列目右端が私です。)



ベトナム現地スタッフサッカーチームと共に（中央水色シャツが私です。）



ベトナム現地スタッフに誕生日を祝っていただきました。



2014年の就職状況と 2015年の展望



1. 質重視の採用試験

2014年度の就職状況は昨年度よりも良くなっています。全国的に見ても、理系の需要は文系に比べれば好調であり、売り手市場とはいかないまでも良好な就職状況といえます。しかしながら、バブル期の採用状況とは異なり就職氷河期と呼ばれた時期を乗り越えた現在では、各企業とも質に重点を置く採用が浸透ってきています。

その一例として、現在、SPIに代表される適性検査が各企業の採用試験として用いられています。この適性検査は一般に「知的能力」と「性格」の2種類を測定するための検査となっています。「知的能力」は言語能力と非言語能力とに分かれており、技術系では数的処理などを重視した非言語系の得点に重きを置く企業が多いようです。また、「性格」についてはさまざまな面からの質問により、学生の人物像が示されるとのことです。面接時、あるいは入社後にこの結果を使用する企業もあるようです。

生産工学部では「知的能力」に関するSPI模擬試験と実践講座を2012年度から実施しています。SPI模擬試験は毎年1000名を超す学生が受験しています(表1)。

表1 SPI模擬試験受験者数と実践講座受講者数

	SPI模擬試験 受験者数	SPI実践講座 受講者数
2012年度	1066	385
2013年度	1283	440
2014年度	1130	397

この模擬試験は無料であり、模擬試験の結果に基づく能力別クラス編成を行い実践講座が開かれています。

SPI実践講座は技術系企業で重視されている非言語系について実施しています。

毎年約400名の学生が受講しています。受講料は大学からの補助もあり5,000円(2014年度の受講料)で受講できます。

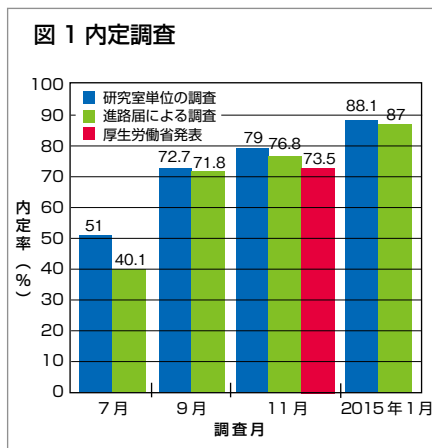
2014年3月卒業の学生を調査したところ、2013年10月の時点で、この講座の未受講者の内定率が61.6%であるのに対して2012年末の講座受講者の内定率は81.6%でした。就職に対する意識の違いもあると思いますが、講座受講者の内定率が20ポイントも高い結果となっている点は注目に値します。一般的にSPIの「知的能力」に関する点数は試験問題に慣れることで得点が上昇することが分かっています。したがって、今まで特にSPIの対策を行っていなかった学生や、勉強方法が分からなかった学生にとっては実際の採用試験前の願ってもない機会と言えるでしょう。また、模擬試験で高得点を獲得した学生にとっても、能力別授業であることからさらなる得点の上積みが期待できます。

人気企業は希望者が多いため、高得点を取らないと面接試験に至らないケースが考えられます。また、SPIなどの適性検査を通ったとしても検査の得点と面接との総合評価で採用の可否を決める企業も多くあります。SPIの得点が合否のボーダーラインで通過した学生と、高得点で通過した学生とでは採用側企業の学生に対する印象も大きく変わるものと思われる。生産工学部では、この実践講座を通じて模擬試験結果の成績上位の学生をさらに伸ばし、第一希望の企業への内定が受けられるように指導しています。また、成績が思わしくない学生に対しては自分の弱点を理解させ、基礎から問題の解き方を教え、できる限り高い得点で面接試験を受けられるように指導しています。

2. 2014年度の内定率

生産工学部の内定状況は2014年11月4日時点で76.8%です(図1)。昨年の10月29日での生産工学部の内定率が66.1%であり昨年度よりも内定率は約10ポイント上昇しています。この傾向が続くとすれば2014年度末の内定率は昨年度の年度末の内定率である94.3%を超えることが期待できます。また、文部科学省と厚生労働省が11月に発表した理系の就職内定率は73.5%(10月1日調査時点)であり、昨年度の同月の内定率が70.3%であることから3.2ポイントの上昇となっています。

全国的にも理系の就職率は好調であることが示されています。しかし、昨年度の10月期で比較すると全国平均の理系における内定率(70.3%)よりも生産工学部の内定率(66.1%)が低くなっています。この結果は内定調査の方法に依るところが大きいと考えられます。



今年から生産工学部の内定調査の方法が少し変わりました。昨年までは、内定を決めた学生自らが各学科の事務室に提出した進路届を集計することで内定率を算出していました。この方法だと、内定をもらっていたとしても進学を検討中や公務員試験の結果待ち、また複数の企業

からの内定があり、進路の最終決定が行えていないなどの理由から進路届を提出しない学生がいるため正確な内定調査とはなっていませんでした。

今年度はこの進路届による内定調査の問題点を改善するため、卒業研究の各研究室単位での内定調査を7月から実施しました。2カ月に1回のペースで調査をお願いしています。また、調査に当たっては内定が決まっていない学生の状況も報告してもらうようにしています。

内定をもらっていない学生が就職希望であり就職活動中なのか、あるいは就職を希望していないのかなど、より詳細なデータが集まりつつあります。

この調査を実施することで就職希望でありながら未内定である学生と就職を希望しない学生の分別を行うことができ、より効率的な就職指導を行うことができると考えます。

図1は従来の進路届による調査と研究室単位での調査による月別内定率です。この図から、潜在的な内定者が7月期では約10%も存在することが分かりました。しかしながら、9月以降は研究室単位の調査と進路届による調査結果との差が縮まっています。複数の内定をもらった学生が最終的に就職先を決めたことや大学院進学の設定、あるいは公務員試験の発表時期が7月から9月の間に行われた点が理由と考えられます。

3. 2015年度の展望

2015年度の企業の採用活動は、既に報道されている通り以下の日程で進められます(図2参照)。

①広報活動：卒業・修了年度に入る直前の3月1日以降

②採用選考活動：卒業・修了年度の8月1日以降

③採用内定日：卒業・修了年度の10月1日以降

採用活動の3月への後ろ倒しは、従来の採用活動開始時期の12月では学業に支障が出るとの指摘などから検討され、実施に至りました。その結果、平成26年11月の文部科学省などの民間企業及び大学における学生の就職・採用活動時期の変更(後ろ倒し)に関してのアンケート調査結果を見ると、平成27年度(2015年度)は94.4%の企業が後ろ倒しへの対応を行う見込みとなっています。

生産工学部では例年2月に実施していた企業セミナーを企業の採用活動開始時期に合わせて平成27年3月2～5日に開催します。毎年開催されるセミナーであり参加企業は各日100社参加であり合計で400社におよびます。学生には、このセミナーを活用して積極的に各企業の情報を集めてもらいたいと思います。

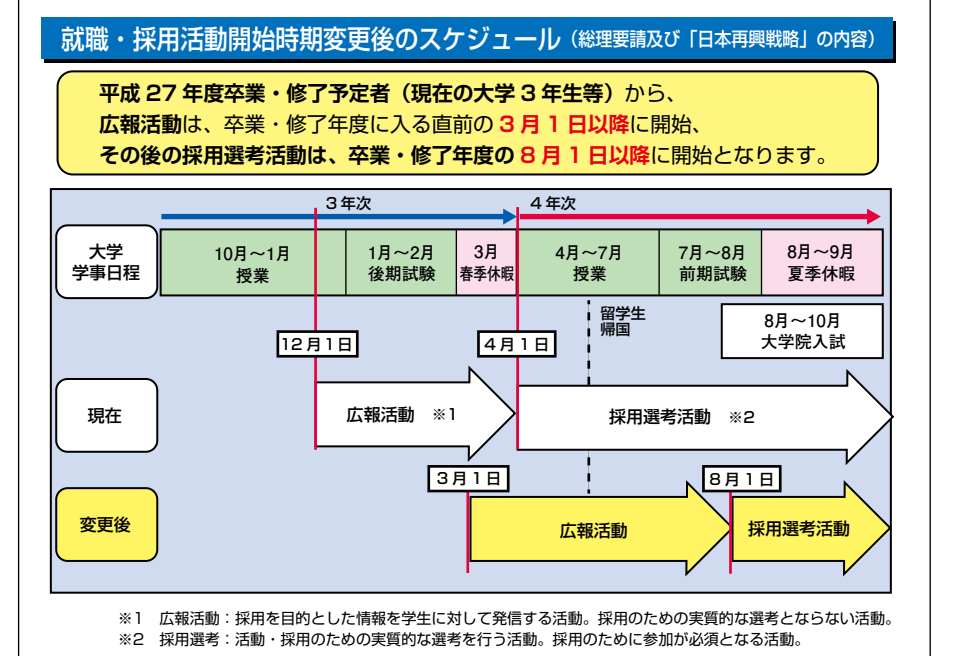
さて、生産工学部では2015年1月

時点で、各学科においてOB・OGによる講演会や職種・仕事内容の説明会など、個々の企業の採用活動ではない形でキャリア教育を継続させています。採用活動時期が後ろ倒しになったため、3年生の就職活動開始時期も遅くなるかと懸念されましたが、表1のようにSPI対策などの受験状況を見る限り例年並みと考えて良さそうです。

冒頭にも書きましたが、近年の採用状況からみて理系の就職は2015年度も好調を維持できる見込みです。2015年度に就職内定を希望する学生の皆様には、今まで受けてきたキャリア教育の成果を生かし、学部企業セミナー・学科の講演会や説明会に積極的に参加して早期の内定実現を期待します。

生産工学部では、第一希望の就職先からの内定が実現できるように、2015年度も全教職員をあげて就職支援を行ってまいります。

図2 就職・採用活動開始時期変更後のスケジュール



(http://www.kantei.go.jp/jp/singi/ywforum/zikihenkou_info.html より引用)

就職活動体験記

機械工学科

“自分を知る”ことが強い
島崎 夏雄人(東日本旅客鉄道株式会社 内定)

就職活動を開始した頃は、聞いた事のある企業にエントリーすることだけで、しっかり就職活動を行っている気になり安心していました。しかし、それでは面接での話はすまないという反省し、漠然とではありますが「鉄道が好き」という理由から鉄道業界を中心にエントリーすることにしました。

採用試験当初、多くの慣れない経験に苦戦しました。面接では自己紹介もままならず自分をアピールするなど全く上手くできませんでした。

また、グループディスカッションも苦手でした。しかし、自分の興味がある業種に進んでエントリーをして採用試験の経験を積んだことによって、多くの場合は同様な質問が何度も聞かれたので、自分にあった面接攻略マニュアルを独自に作ることができました。また、自分を知ることによってグループディスカッションでも周囲との協調性を踏まえて、自分の意見を発言できるようになりました。

こういったことから、私の場合には、まずは就職活動を積極的にして自分を知ることが強みとなり、最終的に自分が本当に希望する会社の内定へと繋がったと考えています。

就職活動は平坦な道のりではありませんが、自分自身と真剣に向き合って、本当にやりたい仕事を見つかることができれば、楽しい社会人生活が期待できるはずで、大変貴重で重要な時間だと思います。

俯瞰的に物事を捉える

榎本 貴宏(日本無線株式会社 内定)

就職活動を振り返ってみると、自分の強みを生かすということがどれほど自分に有利に働いたか改めて認識することができた。自分の強みを生かすことで他人と区別され、かつその強みが会社にとって必要とされるものであったために内定をいただくことができたと思う。

就職活動で、最初に取り組んだのは自己分析だった。自己分析をしてみると物事を俯瞰的に捉えるという考え方を大切にしていたことが分かった。

私は囲碁を趣味としていて、大局観を大事にして碁を打つ。大局観とは物事の状況を俯瞰的に見て判断することである。私は囲碁で培ってきた物事を俯瞰的に捉えるという力を就職活動でアピールしていこうと考えた。

今まで生きてきた中で俯瞰的に見る力が具体的に生かした場面をアピールした。例えば、学生実験において流れ作業的に行動するのはなく、どうしてその実験を行っているのか第三者目線で捉えて内容理解を深める事ができた、ということのエピソードとして話をした。俯瞰的に物事を捉えるということは細かいところが見えにくいということになるので、部分的なところを見落とさず、大局を見るためには、部分的な物事を、パズルピースを嵌めるように積み重ねれば良いと考え、実践していることを訴えた。囲碁を例に出し、俯瞰的に見ることの長所と短所、短所の改善に取り組んでいるということを経験で話すことで好感度を得ることができたと考えている。

自分の強みは何だったか

大谷 穂高(NEXCO 東日本[東日本高速道路株式会社] 内定)

就活で活きた自分の強みは「行動力」であったと思います。しかし、この強みは就活を通して培われたもので、以前から強みと感じていたわけではありません。

私は就活対策本などで見かける部活動やサークルの経験が無く、学業や成績にも自信がなかったため、就活開始当初のES・面接対策講座(土木工学科)では自己PRに人一倍苦労しました。振り返れば、このとき実情を初めて痛感し、危機感を得たからこそ、打開策を熟考できたのかもしれない。

打開策としては、例えば自己PRのために慌てて経験を探したり、積んだりするのではなく、建設業界や土木技術者をより良く知り、「志望動機」と「将来展望」に磨きかけることで、これからの「やる気」に説得力を増そうと考えました。このため、業界誌やインターネットによって建設業界の課題と展望、各企業の特徴を幅広く探求し、説明会や現場見学会にも参加して多くを直接吸収しました。また、リクルーターとの面会・面談の機会を積極的に活用することで、この方々からの直接的な支援・指導が大きき力になったと考えます。ちなみに、第一志望から内定をいただくことは出来ませんでしたが、その悔しさがバネとなって、行動力がさらに鍛えられていったと思います。

「可能性を高めるために、積極的かつ具体的な行動が欠かせない」ことを忘れずに、一生、悔いがないように、皆さんの「行動力」が大いに発揮されることを期待しています。

石本 明日香(富士電機株式会社 内定)

私は3年生の12月から就職活動を始め、関心のあ

る業界の企業にエントリーしました。しかし、選考が進むにつれ数多くの面接試験を受けましたがなかなか内定には至らず苦しんだ時期がありました。

始めの頃は、自己分析や企業研究ばかりに気をとられていました。しかし、本学部の就職セミナーに参加したとき、企業の方とのやり取りを通して、なりた

自分のビジョンが不透明であったことに気づかされました。セミナー後は、具体的に自分が働くイメージを念頭に置き、面接に臨むことができました。その結果、自分に合った企業から内定をいただくことができました。これから就職活動を行う皆さんは、自己分析・業界研究・SPI対策など、やることが沢山あるかと思いますが、ぜひ、自分が社会人としてその企業で働くイメージを持って就職活動に臨んでください。

田中 理彦(文化シャッター株式会社 内定)

生産実習では、IT関係の企業に行き、ロボットの制御プログラムについて勉強し、自分で作ったプログラムについて発表しました。結果としてプレゼンの仕方

や社会経験を得ることができたと思います。私が内定を頂いた企業については、学部の企業セミナーや、国際フォーラムで実施された日本大学の企業説明会など、可能な限り説明会に出席しましたが、一度だけ説明する係の方が違う事がありました。そうしたら、その方がたまたま面接官で、私のことを良く覚えていておっしゃっていました。その後、選考があり、ゴールデンウィーク明け早々に内定を頂くことができました。

今、就職活動を振り返ると、学内の説明会で見かけなかった企業や、大学に求人者が来ていない企業については、書類審査などでうまくいかないことが多かった印象があります。なるべく大学に関わりの深い企業を中心に受け、企業の方に覚えて頂くようにすると効果的ではないかと思

中川原 理紗子(株式会社応用地質 内定)

私が内定先企業に興味を持ったのは、企業研究に際して先輩方からの助言を契機としています。このため、早い時期から目標を定めて就職活動に臨むことができたが、採用試験の方法や期間は企業ごとに異なるため、流れを掴めずに戸惑うこともあり

ました。自己分析や企業研究には自ら率先して取り組み、選考の都度、これらを磨くことが重要と考えます。例えば、説明会に参加した日は必ず要点を整理して、面接で伝えられる情報にまで磨き上げることが大切です。

「人から聞いた話」で終わるか、「自分の考えや言葉」に育てるかが結果を大きく左右します。また、筆記や面接に対しては学科で開講された講座を活用して効率的な対策を重視しました。これらは私の「はじめの一歩」で背中を押してくれた貴重な機会であり、特に面接講座では緊張と失敗からの気付きが成果に直結したことを実感しています。

決して内定獲得のためだけでなく「自分らしさを進化させる」、そんな就職活動にしてください。

建築工学科

将来を見据えて想定することが鍵

児玉 高史(株式会社竹中工務店 内定)

私は、1年生の入学当初から、社会に出たときに、建築を通して自分に何ができるのかを考えていました。そして、3年生の12月より就職活動サイトを通して、企業探

探しを始めました。就職活動の前に、将来を見据えて逆算し、今何をすべきかを考えていたことが私の強みになりました。大学の講義だけでなく、ボランティア活動や建築関係のアルバイトを通して経験を積むことも良いことでした。

将来、自分で考えた建築を自身の手でつくり、社会に恩返しすることが私の目標です。最近では、労働時間や賃金の問題も多くメディアに取り上げられていますが、企業を選ぶポイントとして、「やりたいことができるか否か」に重点を置くべきだと思います。もちろん入社してすぐにはいかないでしょうが、5年後、10年後にどうなっていたいかを想定すれば、選ぶべき業種や職種が見えてくると思

います。もし今、何をやりたいかわからない場合は、やみくもにエントリーや自己分析をやる前に、今やっていて楽しいこと、いつかはやってみたいことを書き出してみてください。そこにヒントがあると思います。私は全部で3社を受けましたが、サイトに載らないような工務店や職人集団にも興味がありました。結果として、目標に最も近いと考える企業を選べましたが、建築についてもっと学ばなければならないと思っています。

早めの準備で余裕のある行動!!

尾崎 晶一(共同印刷株式会社 内定)

共同印刷株式会社から内定を頂いたのは、なるべく早めに就職活動の対策を行うといった行動力があ

ったからこそだと思います。人生で初めての就職活動で何から始めていいのかわからないのに関わらず、私が早めの行動ができた理由は、個人的にボーイスカウト活動をやっており、そこで学んだ計画を前倒しで行動するように努めることを普段から実践していたことが良かったのではないかと

思います。今、就職活動を振り返ってみると、エントリーシートは締め切りの1週間前には一度書き終わらせ、見直してから締め切りの3日前には確実に届くように努力をしてきました。一度見直すことで間違

った字や文章を直すことができ、読み手に良い印象を与えたのではないかと思います。さらに、締め切りに余裕があることで、急に他企業とエントリーシートの締め切りが重なった場合でも時間に余裕があり、焦ることも殆どありませんでした。説明会においても、ボーイスカウト活動で普段から年上の人と接していたので、質問や会話に関しては緊張することなく、普段通りの自分で接することができた気が

就職活動を楽しみながら、情報収集をする

徳田 大(株式会社千葉興業銀行 内定)

文系、理系には拘らず、自分はどんなことがしたいのか、どんなことなら就職して働き続け

て行けるかを考えて就職活動を続けました。企業の合同説明会では、興味のある会社はすべて訪問し、その中で特に気に入った会社については帰ってから、すぐに調査研究をして、自分が働いたらどんな風になるかのビジョンを想像

しました。足を使い、いろいろな企業の説明会にも参加して、その企業の雰囲気や重視しました。入社試験を受けた企業は少な

かったですが、説明会にいった回数は、私の友人たちの倍近くありました。4月までにいくつかの企業から内々定を頂く事ができ、そのなかから一番自分の将来のビジョンを描けた地方銀行に決めました。理系から銀行へ行くのかと思う方もいるかもしれませんが、私がこの地方銀行に決めた理由は、人事部の方や働く銀行員の方々の人柄が

一番の決め手でした。これはさまざまな企業を見て来たからこそ、違いが分かって気付いた点です。就活時に意識していた事は、就活を楽しむということです。どの企業でも必ず出会った就活生達とFriendになるようにしました。一人だと緊張しますが、友達として、いろいろな話をしているとリラックスできるからです。また、理系から金融を狙うので、知らないことばかりでしたが、会話をした学生から聞いて得た知識で補

マネジメント工学科

大学院生:樋口 咲子(清水建設株式会社 内定)

私の就職活動期間は12月から約4カ月間でした。とにかく努力を惜しまず積極的に行動したことで、第一志望である清水建設の都市開発に合格できたのだと思

います。受けた企業は多くはありませんが、特に忙しかった2、3月は会社説明会、OB訪問、リクルーター面談、ES提出、WEB試験等の他、ポートフォリオ作成やプレゼンテーションの練習をほぼ毎日行っていました。

正直、明日が来なければ…そんなことを思う日々でした。しかし、いつも励ましてくれる友人や先輩、先生方、良い情報交換ができる他大の友人、アドバイスをたくさんくださるOBやリクルーターといった多くの方々の存在が支えとなり、感情に流されることがなく就職活動

を乗り切ることができました。最後に、いつかはわかりませんが必ず結果は訪れます。なので、多くの人々に自分に合った職を手に入れてほしいと思います。行動あるのみです。

大学院生:鈴木 翔(三井化学株式会社 内定)

私は、機能化学品や石油化学製品の製造・販売を行う三井化学株式会社に学科推薦を利用し、内定をいただきました。

私の就活期間は、2013年10月から4月までの約7カ月間でした。10月から自己分析や企業研究を行い、12月に学科推薦の募集に応募し、1月末に推薦をいただきました。選考は3月末から始まり4月の中旬に内定という流れでした。

私は、ライフサイエンスなどの付加価値を持つ化学品の研究に携わりたいと考え、化学メーカーの技術職に絞って就職活動を行いました。

就職活動を行う中で、私はエントリーする企業を絞り込み一つ一つの企業に対して全力を注ぐことに重点を置き、学生生活で培った知識や経験をアピールすることを大切にしました。

就職活動の方法は、人それぞれですが自分に合った方法を見つけることが一番重要だと感じました。

大原 雄(双葉電子工業株式会社 内定)

12月のエントリー開始を皮切りに就活を始めました。

最初は面接に慣れたいとの考えもあり、とにかく多くの企業を受けることに重点をおいていました。しかし、この時期は、就職の方向性もあいまいだったこともあり、面接に失敗し続け自信も失っていました。

これではいけないと思い、自分を見つめ直す冷却期間をおいて、再度就職活動に取り組むことにしました。この時、自分なりに出した結論は、業界、業種を絞り、量より質を高め、中小企業にも目を向けるという軌道修正をすることでした。このことが功を奏し、面接に通るようになり、自信を付け、内々定を頂くことができました。

私の就職活動は、まずは行動して、失敗したら行動を修正するというものでした。このやり方は非効率かもしれませんが、考えすぎて不安になるようなら、今できることを行動に移してみてください。きっと何か得られると思います。

「コネ」を作って生産実習先で内定を 高橋 達也 (共同印刷株式会社 内定)

私は、一風変わった就職活動をやり遂げました。というのも現在主流のネットを使った正攻法ではなく、「コネ入社」という、9カ月におよぶ地道かつ説得力のある方法を取ったためです。

始まりは3年生の8月末、生産実習からです。研究室の先生からとある企業をご紹介頂き、インターンシップに参加しました。

配属となった部署は研究内容とは全く関係のない、工場に機械を導入したり整備したりする部署でした。しかしその部署で頂いた「新しいビジネスモデルの提案」という課題がとても面白く、専門外分野に触れることで自分の力を伸ばす機会となりました。

2週間の実習を終え、体験や説明を受けた企業の印象を考え、「この企業に入りたい」と考えました。早めに動こうと考え取った方法は、「人事の方とコネを作り、他の学生以上にアピールを行う」ことでした。それ以降は12月の解禁日まで、人事の方とメールのやりとりをしました。折角生産実習というメールでできる口実が出来たので利用しない手はないです。12月以降、その企業が参加する説明会にはおむね参加し、人事の方と話をしたりさらにはOB訪問にも伺うなど、さまざまなアピールを4月まで行いました。以上のことが実り、面接の試験の際はインターンシップも含め加点对象として見てもらえ、5月には内定を頂き「コネ入社」が実現しました。

自分の芯を持ち行動する

那須 大輔 (東洋熱工業株式会社 内定)

自分の強みとしては、自分の芯を持ち行動することです。入学当時は環境に携わる職に就きたいと漠然と考えていましたが、3年次の生産実習特別講義と生産実習で空調設備に関する講義と実習を通じて、次第に空調設備に興味を持つようになりました。

2013年の12月から企業研究を中心に就職活動を開始しました。学部で行われた2月の就職セミナーでは、事前に空調の製造、施工、管理、プラント設計を中心に10数社に絞ってお話を伺い、空調設備の企業に一本化するに至りました。

内定を頂いた東洋熱工業株式会社には1月に会社説明会に参加し、3月にテストセンターでSPI試験と面接試験を受け、4月に最終面接を行い、内々定を頂きました。

就職活動の準備としては、大学のSPI模擬試験と実践講座を受講しました。問題傾向や苦手な分野の把握ができ、早い時期に対策できたことが内定に繋がったと思います。実践講座の他にも研究室のゼミナール、また参考書などの本を購入して授業の合間に勉強しました。エントリーシートや志望動機は研究室の教員や就職指導課にチェックしてもらいより具体的な内容にし、表現についてアドバイスをもらいました。

就職活動は業種や職種が決まってないと焦ってしまう傾向があります。しかしそこで焦る必要はなく、合同説明会やインターネットなどでさまざまな業種の情報を収集し、何をやりたいのかを決め、そこを起点として行動することによりスムーズに就活を進めることに繋がります。自分の芯を見つけて頑張ってください。

キーワードはネガティブ

倉田 俊輔 (日本放送協会 内定)

デザイン学科に在籍していながら絵は下手、プレゼンも得意とは言えない、そもそも勉強全般が苦手。そんな良いところなしに見える自分が唯一の強みだと思えるのは「ネガティブ」だということくらいです。

ネガティブというあまりよい印象を持たれる言葉ではありませんが、私は決して悪い事だとは思いません。ネガティブであるということは自分の考えたモノや企画に対して否定的で「ここを指摘されたらどうしよう」と思い悩み続けるという事です。それは「Why」に対する答えを常に探している事になり、何かを新たに企画・制作する上でとても大切な事で、私の場合ネガティブであるが故に、自然と自分への問いかけができていたのだと思います。とにかく社会に出て自分の考えたものや推薦するものに、相手を納得させるだけの理由がないのは厳しいですから。

自分の強みが分からないという人は一度友人に印象を聞いてみる事をお勧めします。自分自身も複数の友人に「お前はネガティブだ」と言われ、初めて自分がネガティブな思考の持ち主なのだと気づいたからです。ただし、私と同様ネガティブな思考の方はそのまま自分の強みだと受け止めないでください。

ネガティブなだけではもちろんダメです、見つけた不安を取り除くための少しの行動力はどうしても必要になります。

石井 里菜 (富士通株式会社 内定)

就職活動は3年生の12月から約6カ月間でした。

11月までは興味ある業界探しやSPI対策を行いました。ITの力で人々の生活をより豊かにしたいこと・専門知識が活かせることという理由からIT業界を中心に探すことに決め、SPI対策は大学のSPI対策講座を中心に進めました。

就職活動開始後では時間が取りづらいため、早めの対策をお勧めします。

12月からは合同説明会に何度も足を運び、入社したい会社や視野を広げるため様々な業界の説明を聞きました。会社説明会では志望動機のヒントとなる情報が入手できるのでメモをとる癖をつけることが重要です。面接ではハキハキと明るく簡潔に答えること・想定される質問の答えはキーワードで覚えることを心がけました。相手により伝わると思ったためです。

今年から就職活動は長期化し学業との両立が難しいと思いますが、悔いが残らぬよう就職活動を楽しんでください。

奥田 謙太郎 (ジヤトコ株式会社 内定)

実際にたくさんの社会人へ会って会話をすること、それが私が就職活動を体験して一番重要なことだったと思います。

情報誌や会社のパンフレットに書いてあることだけでは、本当にその会社のことを知ることはできません。自分が入りたいと思っていた会社でも実際は違っていたということはよくあります。

会社説明会では、全体説明を聞いて終わるのではなく、人事の方や他の社員の方に自ら積極的に質問をします。さらに、OB訪問など最大限に活用し実際に働いている人と話をしてその方が入社した経緯やどのような意識をもち日々働いているか、などといった具体的なことを伺い会社の本当の雰囲気や特徴を掴みます。それが実際に自分の将来の働いているイメージと合うか、を確認して選考にのぞむことが大切だと思います。

受け身にならず、積極的に自分で行動することで、本当に入りたいと思える会社と出会えると思います。

知花 賢一郎 (株式会社船場 内定)

私が本格的に就職活動をはじめて最初に行ったことは、企業選びの基準を決めることでした。

1つ目は、以前から興味があったインテリアに関わる企業であること。2つ目は、交換留学生としてアメリカに滞在した経験から、海外でも活躍できる企業であることでした。それを基準として先輩などの情報から、数社ほど選びました。

学内セミナーや説明会に参加することで、それらの企業の自分の中での順位付けを進めると同時に、先生や先輩にアドバイスをもらい、審査に使うポートフォリオの制作をしました。

面接試験対策では、自分がこの企業で何をしたいのか。自分がどういう人間なのかということをしっかり伝えることを心がけ、足りないと思ったら別に資料を作りました。

就活は人生を決める重要な機会ですのでたくさん悩んでください。悩むことでさまざまなことがみえてくると思います。



学科ニュース

機械工学科

学会等で研究成果を発表した多くの学生が 様々な賞を受賞しています

学生たちの国内学会および国際会議における研究成果発表が高く評価された受賞記録の一部をご紹介します。

教員では、邊吾一教授が日本機械学会関東支部創立20周年記念功労賞、大久保通則教授が溶接学会軽構造接合加工研究委員会功労賞を受賞されました。また、柳澤一機助手の講演発表が第22回日本機械学会交通・物流部門優秀論文講演として表彰されました。

その他、機械工学科のホームページ (<http://www.me.cit.nihon-u.ac.jp/>) にてさまざまなニュースが紹介されていますので、ご興味のある方はそちらをご覧ください。

	学生氏名	学年	受賞名
平成25年度	代表：寺澤 勝英	B4	日本マグネシウム協会主催学生マグネシウムデザインコンテスト・制作部門努力賞
	中井川 秀敏	M2	日本マグネシウム協会主催学生マグネシウムデザインコンテスト・制作部門努力賞
	渡辺 涼太郎	M2	軽金属学会関東支部若手研究者育成研修会・最優秀研究講演賞
	池谷 洵	M1	軽金属学会関東支部若手研究者育成研修会・最優秀研究講演賞
	菅谷 樹	M2	「平成25年度軽金属希望の星」賞
	渡辺 涼太郎	M2	「平成25年度軽金属希望の星」賞
	田中 健太	M2	FAST-zero '13-Finalist for Best Paper Award
	高橋進研究室		千葉市科学フェスタ2013 ちばSCグランプリ・3位
	渡辺 涼太郎	M2	軽金属学会秋期大会・優秀ポスター発表賞
	荻野 誠之	B4	鉄道技術連合シンポジウム2013・優秀発表賞
	若井 翔平	M2	ADVANTY2013 シンポジウム・優秀発表賞
	金子 堅太郎	M2	微粒化シンポジウム・優秀講演賞
	青木 貴志	M1	微粒化シンポジウム・優秀講演賞
平成24年度	岩崎 悠人	M1	風力発電コンペ WINCOM2013・日本風力エネルギー学会賞
	池谷 洵	M2	軽金属学会関東支部第4回若手研究者ポスター発表会・優秀ポスター賞
	小澤 崇将	M2	軽金属学会関東支部第4回若手研究者ポスター発表会・優秀ポスター賞
	井上 真生	M2	第9回日本第9回磁気科学学会年会・学生ポスター賞
	下瀬 あかり	B4	アドバンティ2014シンポジウム・ショットガンポスターセッション・優秀発表賞
	平野 拓実	M2	The 17th International Symposium on Technology for Next Generation Vehicle・Best Student Paper Award
	平野 拓実	M2	第23回日本機械学会交通物流部門大会・優秀講演賞
	長見 茂	D3	第47回学術学術講演会・優秀学生発表賞 (口頭発表)
	入江 彬裕	M2	第47回学術学術講演会・優秀学生発表賞 (口頭発表)
	小泉 賢人	M2	第47回学術学術講演会・優秀学生発表賞 (口頭発表)
	市東 竜太郎	M2	第47回学術学術講演会・優秀学生発表賞 (口頭発表)
	斎藤 郁	M1	第47回学術学術講演会・優秀学生発表賞 (口頭発表)
	小沼 弦	M1	第47回学術学術講演会・優秀学生発表賞 (ポスター発表)
	村越 好泰	M1	第47回学術学術講演会・優秀学生発表賞 (ポスター発表)

電気電子工学科

斎藤君が国際会議でポスター賞を受賞！

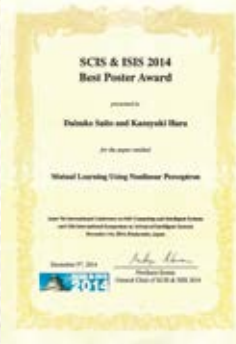
大学院電気電子工学専攻1年の斎藤大輔君が2014年12月に北九州市小倉で行われたソフトコンピューティングに関する国際会議 (SCIS & ISIS 2014) でポスター賞を受賞しました。

この会議は隔年で日本と韓国で開催されており、今年は約300件の発表が行われ、ポスター発表は32件でした。

受賞論文のタイトルは「Mutual Learning using Nonlinear Perceptron」です。今後も斎藤君のますますの活躍が期待されます。

平成26年度パテントコンテストで2グループが受賞！

知的所有権法の授業を受講した3年生が文部科学省、特許庁、日本弁理士会、(独)工業所集権情報・研修館主催のパテントコンテストに参加し、大学部門で見事に入賞しました。大学部門は170件の応募があり、そのうち13件が入賞



卒業後、修了後のますますのご活躍を機械工学科教職員一同、お祈り申し上げます。

	学生氏名	学年	受賞名
平成25年度	代表：寺澤 勝英	B4	日本マグネシウム協会主催学生マグネシウムデザインコンテスト・制作部門努力賞
	中井川 秀敏	M2	日本マグネシウム協会主催学生マグネシウムデザインコンテスト・制作部門努力賞
	渡辺 涼太郎	M2	軽金属学会関東支部若手研究者育成研修会・最優秀研究講演賞
	池谷 洵	M1	軽金属学会関東支部若手研究者育成研修会・最優秀研究講演賞
	菅谷 樹	M2	「平成25年度軽金属希望の星」賞
	渡辺 涼太郎	M2	「平成25年度軽金属希望の星」賞
	田中 健太	M2	FAST-zero '13-Finalist for Best Paper Award
	高橋進研究室		千葉市科学フェスタ2013 ちばSCグランプリ・3位
	渡辺 涼太郎	M2	軽金属学会秋期大会・優秀ポスター発表賞
	荻野 誠之	B4	鉄道技術連合シンポジウム2013・優秀発表賞
	若井 翔平	M2	ADVANTY2013 シンポジウム・優秀発表賞
	金子 堅太郎	M2	微粒化シンポジウム・優秀講演賞
	青木 貴志	M1	微粒化シンポジウム・優秀講演賞
平成26年度	岩崎 悠人	M1	風力発電コンペ WINCOM2013・日本風力エネルギー学会賞
	池谷 洵	M2	軽金属学会関東支部第4回若手研究者ポスター発表会・優秀ポスター賞
	小澤 崇将	M2	軽金属学会関東支部第4回若手研究者ポスター発表会・優秀ポスター賞
	井上 真生	M2	第9回日本第9回磁気科学学会年会・学生ポスター賞
	下瀬 あかり	B4	アドバンティ2014シンポジウム・ショットガンポスターセッション・優秀発表賞
	平野 拓実	M2	The 17th International Symposium on Technology for Next Generation Vehicle・Best Student Paper Award
	平野 拓実	M2	第23回日本機械学会交通物流部門大会・優秀講演賞
	長見 茂	D3	第47回学術学術講演会・優秀学生発表賞 (口頭発表)
	入江 彬裕	M2	第47回学術学術講演会・優秀学生発表賞 (口頭発表)
	小泉 賢人	M2	第47回学術学術講演会・優秀学生発表賞 (口頭発表)
	市東 竜太郎	M2	第47回学術学術講演会・優秀学生発表賞 (口頭発表)
	斎藤 郁	M1	第47回学術学術講演会・優秀学生発表賞 (口頭発表)
	小沼 弦	M1	第47回学術学術講演会・優秀学生発表賞 (ポスター発表)
	村越 好泰	M1	第47回学術学術講演会・優秀学生発表賞 (ポスター発表)

しました。本学科からは「点字時計のための表示装置」(池淵竜生君)、「車椅子対応引戸式開閉ドア(マンションの玄関ドア)」(梅田礼男君、梅田直弥君、上田恵一郎君)が入選しました。おめでとうございます。

電気電子設計の授業内容をオープンラボで紹介しました

11月2日に行われたオープンキャンパスで、3年生の高塚雅人君が鉄道模型をLEDと論理回路で構成した電子回路で速度制御するデモンストレーションを行い、子供たちの興味を集めていました。

このデモンストレーションは電気電子設計(S)という授業で設計した鉄道模型制御装置をさらに改良したものです。一般にはあまり知られていないのですが、LEDは光を出すだけではなく、光を受けて電気に変換できます。これを利用した回路が使われており、高塚君の工夫が生かされています。



土木工学科

第二回千葉県県土整備部との交流会の実施

一昨年の平成 25 年 9 月に、土木学会の全国大会が津田沼校舎で開催された際、千葉県県土整備部の職員や当学科の教員が大会の実行委員を務めたのを契機に交流が始まりました。

従前より、教員が個別に千葉県の各種委員会に参画して交流は盛んであったが、土木工学科としての取組みや横方向の連携が十分ではありませんでした。県土整備部は、道路、河川、港湾その他土木施設の計画・建設・維持管理、都市計画及び宅地開発などに関する仕事を行う部署であり、県民の安心・安全・快適な生活のための重要な役割を担っています。

千葉県との交流の目的は、官と学の交流を深め、千葉県の行政に協力できることがあれば学科として地域貢献したり、千葉県からの要請に応えたり、あるいは共同で研究を実施したりとすることで県民へ貢献することです。

キックオフとなる第一回目の交流会は、平成 26 年 2 月 10 日(月)に、生産工学土木工学科にて行われ、千葉県より県土整備部の施策方針に関する説明がなさ

れ、意見交換が行われました。第二回目は諸般の事情で延び延びとなり、平成 27 年 1 月 26 日(月)に千葉県庁にて行われました。

今回は、県土整備部長をはじめとした職員 13 名、土木工学科の教員 12 名が出席し、土木工学科の設備紹介、研究分野、研究内容などについて各教員から説明を行いました。また、重点説明として、水工研究室より、海岸汀線の変動、波の浮遊砂の濃度分布および防災対策に関する研究を紹介し、活発な意見交換を行いました。

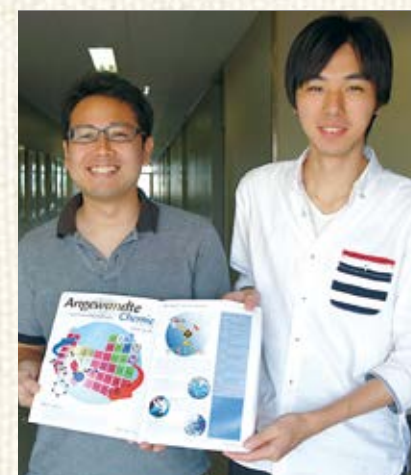
今後は、どのようなことを、どのような形で連携を深めるかの具体的な活動に移す予定です。



応用分子化学科

Angewandte Chemie International Edition 誌の Inside Cover に選定！

藤井研究室の諸崎友人君(D2)と鈴木翔君(M2)の論文、"Syntheses, Structures, and Reactivities of Two Chalcogen-Stabilized Carbones"が、Angewandte Chemie International Edition 誌の Inside Cover に選定されました。



Inside Cover に選ばれるということは、その号に掲載されている論文の中で最も優れた論文の一つであることを意味しています。今後、ますますの活躍を期待しています。

「環境計量士(濃度関係)」に本学科の棚瀬望さんが合格

環境計量士(濃度関係)は環境問題の解決にむけて、環境中における汚染物質の濃度を正確かつ客観的に測定・分析する技能を持つ専門家であることを証明する資格で、合格率約 15%の極めて難易度の高い国家試験です。

学科が取組む「グリーンケミストリーにもとづく"ものづくり"」においても化学物質の微量分析は重要であり、難易度の高い試験に学部 2 年生(受験当時)が合格したことは教員一同の励みになりました。



原口教授に高分子学会からフェローアカデミアの称号が授与

原口和敏教授に対し、「高分子ゲルおよび有機-無機ナノ複合材料の学術および応用に関する貢献」の業績により、公益社団法人高分子学会よりフェローアカデミアの称号が授与されました。

建築工学科

特別講座: Technical Vitalize: 津田沼元気塾

生産工学部津田沼キャンパス出身の卒業生の有志が集まり、現役の学生が「更に元気になってもらう」ということを意図した夜学(ツダヌマ・ゲンキ塾)を開催しております。

建築業界の一線に立つ津田沼キャンパス出身技術者が、机上の学問ではなく、実践で培った経験を基に、実践的な説明を行いました。講座構成は次の4つを主テーマとしてい

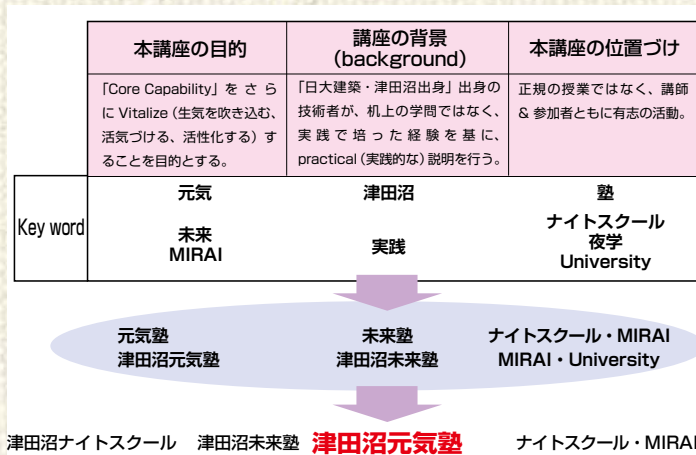
ます。

- I: 建築への情熱 Passion for the Architecture
- II: 一人前になるには road map as technical expert
- III: 仕事への取り組み方 how to improve motivation
- IV: 仕事の進め方・まとめ方 Management competency

受講者が、①デザイン・マインドを持った技術者がさまざまな立場(発注者、行政担当者、インハウス・FM'er等)にて活動することが、質の高い建築を生み出す原動力であるという「仮説」を理解する。②建築学科卒業生は、いわゆる従来で言う「建築家」や「ゼネコン」での活動だけが目指すべき目的でないという「仮説」を理解する。③社会的要請により、新技術の社会的意義やその必要性/重要性を理解した従来の「建築家」のみならず新しい「建築家像」を、また社会や市場(すなわち広義のお客様)が、求めていることを理解する。以上の事を目標としたものです。

講座の運営法は、基本月 2 回、6 時限目より実施し、Q&A を含めて、1.5 時間を開催時間とし、毎回講座終了後、参加者へ所定のアンケート用紙を配布して講師講演内容の評価を受講者にしてもらっています。これらを講義内容とともに報告書としてまとめ次年度に向け検討しているところです。

なお運営は、26年度浅野平八教授、27年度師橋憲貴教授を実施責任者とし、日本アイビーエム前田啓介(非常勤講師)を幹事とする有志で実施いたしております。



マネジメント工学科

米国海外短期派遣記

マネジメント工学科 矢野 耕也

平成 26 年の 7 月中旬より 2 カ月半、海外派遣短期研究員として米国ミシガン州デトロイト近郊、およびボストンに滞在をしました。

破産した都市として知られるデトロイトは米国内でも入国審査がことのほか厳しく、滞在日数的にビザ無入国可能のルールを信じて手ぶらに近い状態で出かけたのが裏目に出てしまいました。

デトロイトは赤信号で止まったら襲撃されるとかのジョークもありましたが、実際はミシガン大学のある Ann Arbor という治安のよい町に滞在し、危険とは無縁でした。緯度が北海道よりも高いせいか日没が 21 時を回っており、またその時間から日本とメールのやり取りが開始されるためどうしても宵っ張りとなり、時差ぼけの解消には苦勞をしたものです。また国際免許にできなかったことも大失態で、サラダとパンを買うだけのために、高速道路のような一般道を片道 6km 以上自転車で行く羽目になりました。そのため、現地で知り合った研究者に週 1 回くらい車を出してもらい、重くて持てない大量の飲料類を購入したものです。

ミシガン州は都会ではないため町に歩行者が少ないことや、徒歩のみの外出に不便を感じた以外は快適で、物価や

食費の安さは驚きを通り越したものでした。ずっと自炊でしたが、何を買っても 2 人前はある食材の量の多さに辟易をしたものです。

最後に寄ったボストンでは、ハーヴァード大学の一機関であるメディカルスクールの附属病院に立ち寄りしました。

街全体が比較的コンパクトで、また歴史があるせいか色々と整っており、またいわゆる路面電車の他に蜘蛛の巣のようにバス網が巡らされ、さらには日本では珍しいトロリーバスまであったりと移動については不自由しませんでした。ミシガン州とは異なりボストン市街には満員電車も大渋滞もあり、ある意味で日本的な生活ができたと感じたものです。



写真: ミシガン大学キャンパスにて

数理情報工学科

数理情報工学科の学生が開発したプログラムが各所で活躍！

数理情報工学科の学生は、全員1年生からプログラミングを学び、学部のうちからアプリを開発してリリースしたり、本格的なシステムを開発して学会等で成果を発表する学生が多数います。

そんな中、2014年にNHKの歴史番組「英雄たちの選択」などで2回も使われたのが「戦国FUSE」です。

本システムは、歴史研究家の方の研究支援を目的とし、戦



戦国FUSEの開発メンバーと歴史家の小和田先生

国時代の武将の意思決定の仕組みを数理モデル化し、それに基づいた行動（戦い）をコンピューター上で再現するシステムで、大学院生の学生が開発して学部の学生が改良を続けています。2015年も同番組で徳川家康と武田信玄の戦いを再現します。

また、学部3年生の学生が、1年生を率いてチームを組んで開発したのが「The マルチタスク〜成り上がり〜」というシリアスゲームです。このシリアスゲームは、2014年10月にサイバーセキュリティの専門家が集まる「情報セキュリティワークショップ」で展示し、その後2015年から一般公開されており、サイバーセキュリティに関する社員教育などに有効なのではないかと期待されています。

数理情報工学科では、プログラミングの力を極めたい学生のために、授業以外の長期休暇中などに学生たちが各研究室でライブコーディング、ハッカソンやゲームジャムなどのイベントを開催しており、それらに参加することによって、初心者でも短期間に本格的なプログラム開発をできるようになるようです。



情報セキュリティワークショップでの展示

環境安全工学科

小森谷先生帰国・・・ホームページリニューアル。今年も就職率100%を達成

平成26年2月より日本大学中期海外派遣研究員として米国カリフォルニア大学ロサンゼルス校に派遣されていた小森谷先生が、9月に帰国されました。Sydney M. Finegold教授のもとで、腸内細菌と疾患の関連について、腸内細菌の分離法と同定や腸内細菌のプレバイオティクスに対する効果などを研究され、論文などの成果を残してこられました。

しかし、その矢先、長井先生が10月16日にご逝去されました。10日ほど前までは変わらず出勤され、授業、実験、学生の指導、研究をされていた中での急逝でした。

ご葬儀には大きな式場に入りきらないほどの学科学生が参列し、長井先生のご冥福をお祈りしました。この



ような中、長井研究室所属の卒研生は全員、長井先生の残された卒研テーマを継続し卒業研究を完成させました。

平成26年9月には、学科ホームページを大幅に改訂しました。コンセプトは先生・学生さんの顔が見える学科です。図はトップページであり、明るく、見やすくなりましたので、是非一度訪問してください。

秋濱先生は自動車技術会より技術部門貢献賞を、今村先生は日本航空宇宙学会より学会技術賞、4年生の長谷川高平君は野村総合研究所の学生論文コンテストで奨励賞を受賞しました。

3月には保坂先生が1年間の海外派遣として英国シェフィールド大学に出発されます。

就職状況は好調で1月に最後まで迷っておりました1名が就職先を決定し、今年も100%を達成しました。

10月にはとても残念なこともありましたが、学科のみんなは変わらず元気一杯です。



創生デザイン学科

川岸梅和教授「感謝状」（市政功労）

川岸梅和教授は「市川市の市政発展に尽力され多大なる貢献をされた」ことにより、平成26年11月3日、市川市から「感謝状」（市政功労）が贈られました。

中込淳也君「育む木製プロダクト」佳作

福井市主催「育む木製プロダクト」デザイン募集において、創生デザイン学科4年生の中込淳也君が応募した作品「モジコトバ」が佳作となりました。



樫村昌樹君・小林卓巳君・木下静美さん・内田圭亮君「海を活かしたまちづくりコンペ」企画賞受賞

一般財団法人みなと総合研究財団主催、横浜市港湾局・国土交通省関東地方整備局後援、「海を活かしたまちづくりコンペ」において、創生デザイン学科3年生の樫村昌樹君、小林卓巳君、木下静美さん、内田圭亮君の作品「みんなとみらい島」が、10月19日（日）に横浜市にて開催された公開二次審査にて企画賞を受賞いたしました。

平沼満紀君・鎌田健福君「ヨコハマ・ヒューマン&テクノランド2014デザインコンペティション」コンセプトデザイン賞・JAL賞受賞

ヨコハマ・ヒューマン&テクノランド2014（2014年7月11日、於：パシフィコ横浜）で行われたデザインコンペティションにおいて、平沼満紀くん、鎌田健福くんが、片手が不自由な障害者向けに共同で考案したレジ袋を自立させ買った商品を容易に入れ易くできる「バッグオープナー」が、「コンセプトデザイン賞」と「JAL賞」を受賞いたしました。

TOPICS

日本建築学会が主催する2014年度日本建築学会技術部門設計競技「自然物の優れた力学的特性を取り入れた新たな構造デザイン」で、川岸研究室チームが佳作を受賞

川岸梅和教授をはじめとする川岸研究室チーム（創生デザイン学科 野田りさ助手、建築工学専攻M1 三村卓矢）は、2014年度日本建築学会技術部門設計競技「自然物の優れた力学的特性を取り入れた新たな構造デザイン」（主催：日本建築学会）において佳作を受賞した。（平成26年9月12日）

「PineConeー環境に適応して変化する複合的構造デザインー」を作品のタイトルとし、状況に応じて機能や形態を自由に変化させる「松穂」の特性を活かした新たな複合的構造デザインを提案している。



日本建築学会関東支部が主催する第16回提案競技「美しくまちをつくる、むらをつくる」「栃木市のDNAー栃木市の歴史を活かしたこれからの拠点のすがたー」で川岸研究室チームが佳作を受賞

川岸梅和教授を代表とする川岸研究室チーム（創生デザイン学科 野田りさ助手、建築工学専攻M1 高橋雄佑・三村卓矢）は、日本建築学会関東支部が主催する第16回提案競技「美しくまちをつくる、むらをつくる」「栃木市のDNAー栃木市の歴史を活かしたこれからの拠点のすがたー」において佳作を受賞した。（平成26年11月23日）

むらをつくる」「栃木市のDNAー栃木市の歴史を活かしたこれからの拠点のすがたー」において佳作を受賞した。（平成26年11月23日）

「共に生きる・活きる暮らし」を作品のタイトルとし、「コーポラティブ方式による持続可能な住まいづくり（居住者主体の暮らしづくり）」と「住民の参加と協力を基盤にしたまちづくり・まち育て（地域コミュニティ全体で支援・創造・応援・育成・維持）」を提案の縦糸に、12のデザインを横糸とし、時間の流れの中で紡ぎ出される人々の暮らしを「拠点」として提案している。



日本建築学会関東支部が主催する第16回提案競技「美しくまちをつくる、むらをつくる」「栃木市のDNAー栃木市の歴史を活かしたこれからの拠点のすがたー」で建築工学科4年生のチームが佳作を受賞

建築工学科4年生 三成俊輝・石井健太・石坂俊樹・加藤聖人・笹井基輝・富田真（北野研究室）の作品「歴史を繋ぎ都市に団楽を育むー拠点を感ずる人の暮らしー」は、日本建築学会関東支部が主催する第16回提案競技「美しくまちをつくる、むらをつくる」「栃木市のDNAー栃木市の歴史を活かしたこれからの拠点のすがたー」において佳作を受賞した。（平成26年11月23日）



株式会社 水澤工務店 執行役員 工事部長 川嶋健史氏

生産工学部は、学生が中心のキャンパスをめざし、教職員はもちろんのこと多くの方たちがさまざまな形でバックアップしています。なかでも一段と心強いサポートをしてくださる卒業生の方々を紹介するのがこのコーナーです。今回は数寄屋建築をはじめ高級注文建築を得意とする株式会社水澤工務店の川嶋健史さんにご登場いただきました。

高度な技術や知識を生かすのは、人間関係を築く力と、逃げずに立ち向かう強い気持ち。

■目標もなく入った大学時代は自分探しの時期だった

小・中・高校時代は野球やサッカーに明け暮れていましたから、ものづくりとはあまり縁のない子供でした。日大生産工の建築工学科に入ったのも、実は日大付属高校の統一テストの結果、推薦されたから。その時点では、将来の進路といっても「とりあえず理系に」というぐらいで、現在の自分の姿なんてまったく想像もしていませんでした。

建築に入る前は、地図に残るような仕事がしたいとおぼろげに考えていましたから、それなら大きな橋を造ったりする土木かなと思っていました。いざ建築に入ってみると、設計もあれば施工もある、構造もあれば環境、設備等々……、いろんな方向があるん

ですね。その中から自分が将来どの方向に進んだらいいか、大学はそれを見極める「自分探しの場」と思い、そんな学生生活を送っていた気がします。

■生産実習の大工仕事や研修旅行が原点だった

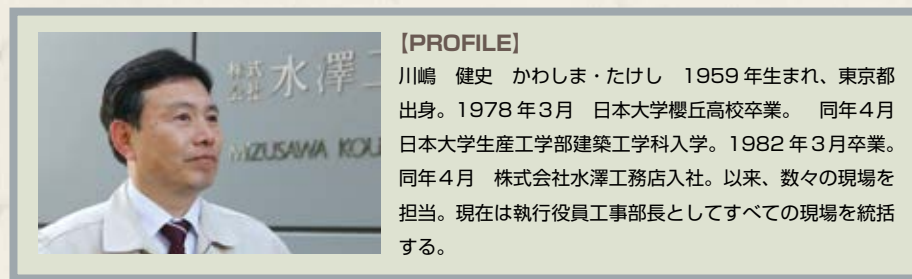
学生時代の経験で一番大きかったのは生産実習でした。地元の工務店さんに行って、大工さんといっしょに実地作業をやらせてもらいました。その経験を通して、ものづくりに対する興味が湧いたと言っていると思います。

もちろん課題で図面を描いたりしていましたが、やっぱり実際にものをつくるのとは違います。例えば、建物を建てるために木と木

を組み合わせる穴をあける。仕口（しくち）を刻む。そういう作業をやらせてもらい、そうやって自分が刻んだものが形になって、建つ。上棟式には感動しました。ものづくりってすごいな、と実感した瞬間でしたね。

また、研究室の研修旅行も貴重な体験でした。著名な設計士さんの建物を見させてもらう機会を何度もつくっていただきました。そういう建築物を見ることで、自分の中で建築に対する探究心が芽生えてきました。

一方では一般の住宅を建てる現場で大工仕事をし、もう一方では著名な建造物を目の当たりにする。そんな体験を通して建築の面白さに目覚めました。振り返ってみると、学生時代のこうした体験が今の私の原点になっている気がします。



【PROFILE】

川嶋 健史 かわしま・たけし 1959年生まれ、東京都出身。1978年3月 日本大学櫻丘高校卒業。同年4月 日本大学生産工学部建築工学科入学。1982年3月卒業。同年4月 株式会社水澤工務店入社。以来、数々の現場を担当。現在は執行役員工事部長としてすべての現場を統括する。

■初めて任された現場で学んだことは人間関係の大切さ

入社3年目に初めて1人で現場を任されました。その現場というのは、六本木の全日空ホテル最上階に入る大阪の有名な料理屋さんの内装仕事でした。現場規模としては大きいものではありませんでしたが、私にとっては大きな意味を持つ現場でした。大げさに言えば、その後の仕事に対する考え方をえてくれるほど大きな転機となった現場だったかもしれません。

当時全日空ホテルは新築中で、うちは下請けの内装工事でポツと入っただけでした。そのほかはゼネコンさんがずっと仕事しているわけです。現場は最上階の36階ですから、材料や人の上げ下げにエレベーターを使わないわけにはいかない。でもゼネコンさんが使ってますから、なかなか使わせてもらえない（笑）。そんなとき、どうすればいいか。結局は人間関係が構築できるかどうかなんですね。

ほかの人たちの荷物上げを手伝ったり、ときには休憩時間に「お茶でも一杯どう？」といってコーヒーを差し入れしたり。要は、いかにコミュニケーションをとるか、なんです。ただ、ぼーっと順番待っていたって、誰も入れてくれません。良好なコミュニケーションがとれば、結果的に仕事もスムーズに進んでいきます。

自分の現場でも同じことです。例えば、朝行ったら、職人さんが動きやすいように掃除しといてあげる。そうすれば自然と職人さんのほうから「あ、掃除しといてくれたんだ」と話しかけてくれます。当然、仕事もスムーズに進みます。あらためてそんなことを学んだ現場でした。

■知識や技術だけでは施主の心をつかめない

私は、よく建築をクラシック音楽にたとえるんですが、クラシック音楽は同じ譜面でも、指揮者や演奏者によって違う音楽になります。建築にも同じことが言えると思います。クラシック音楽の指揮者は建築施工でい

えば現場監督、演奏者は職人です。同じ設計図でも現場監督の理解力や職人の技量によって違う建物になります。現場監督は、設計図を読み解き、自分なりの構成を考えて職人を選定し、指示をするわけですが、構成次第で施主や設計者から喜ばれる建物にもなれば、逆のケースになることもあります。自分の構成で施主や設計者に喜んでもらえる建物を造ることができる。それこそがわれわれ施工屋の最大の快感なんです。

もちろん、誰しものが喜ばれる建物を造りたいと思います。しかし、その思いだけでは施



主、設計者のハートを射止めることはできません。施工屋としての高度な技術や知識の習得は不可欠ですが、それ以外にも先ほどお話ししたコミュニケーション力、さらにはデザインセンスや美意識を身につけることも重要です。建築に限らず、造園、絵画、茶道など幅広い分野に精通して、相手の気持ちをくみ取り、提案やアドバイスができるようになることも大切なことです。

■苦しいときほど逃げずに立ち向かうべし

私の施工屋人生の中でもっとも印象に残る仕事といえば、とある美術館に併設され

た茶室棟工事です。もちろん施工屋として「私がやった仕事」と胸を張れる仕事ですが、大変苦勞をした仕事でもあるんです。

その茶室は公共の建物で、弊社はゼネコンの下請け。設計は美術館建築では著名な先生でした。ただ、数寄屋建築に取り組む機会が少なかったようで、すべてが試行錯誤でした。柱1本決めるにしても、材料は？ 寸法は？ となかなか決まらないんです。行政と建築家の先生との間に意見の食い違いもあって、その調整にも大変苦勞しました。一時はゼネコンの所長に「もう、私じゃ無理かもしれません」と、つい弱音を吐きかけたこともありましたが、でも、所長に「逃げるな。左の頬をたたかれたら右の頬を差し出すぐらいの気持ちで食いついていけ」と諭され、その後は「これはどうですか？ あれはどうですか？」と提案を繰り返して、何とか納まりました。

やっぱり、苦しいからといって一度逃げたら、結局また逃げることになります。どのみち苦しむのなら、逃げずにやってみる。それでだめならしょうがない、ということですね。以来、やらずに悔いるより、やって悔いたほうがいい。これが私の座右の銘になりました。

■水澤らしい仕事をするための水澤らしい組織を構築したい。

今は工事部長という立場で、弊社が受けている工事の各現場の状況判断、各現場から上がってくる書類のチェック、予算のチェック、工期のチェックなどをしています。完全に管理職ですね。お山の大将でいられる現場を離れたのはちょっと寂しいですが、逆にすべての現場を統括しているという醍醐味もあります。

そんな立場で今私が思うのは、たとえば現在抱えている大工さんたちがもっと活躍できるような、本来水澤工務店が得意とする仕事が拡大していくような、水澤らしい組織を構築したい。一般的にいう夢とはちがいますが、それが私の現在の夢です。

【取材後記】

現場をスムーズに回していくキモはコミュニケーション能力、とおっしゃる川嶋さんだけに、インタビューの場は終始和やかな雰囲気にあふれていました。クラシック音楽鑑賞、ゴルフ等々……多彩な趣味をお持ちの川嶋さんですが、昨今の楽しみは「1歳になったばかりの孫に会うこと。大阪にいるのでなかなか会えませんが」。この瞬間がこの日一番の笑顔でした。

平成26年度表彰学生

日本大学による表彰学生

学長賞

マネジメント工学科 4年生

濱田 愛美 (ハマダ マナミ)

優等賞 (42名)

機械工学科	4年生	小林 大志
〃	4年生	下瀬 あかり
〃	4年生	杉 田 皇 士
〃	4年生	野 口 卓 宏
電気電子工学科	4年生	岩 崎 真 宝
〃	4年生	榎 本 貴 宏
〃	4年生	大 野 祐 樹
〃	4年生	宮 島 裕 人
〃	4年生	宮 原 礼 慈
土木工学科	4年生	櫻 井 謙 人
〃	4年生	高 橋 皓 之 輔
〃	4年生	滝 上 諒 人
〃	4年生	都 竹 保 菜 美
〃	4年生	森 田 北 斗

土木工学科	4年生	渡 邉 樹
建築工学科	4年生	岩 崎 耕 平
〃	4年生	岡 本 洸 大
〃	4年生	児 玉 高 史
〃	4年生	新 堂 健 徒
〃	4年生	富 田 智 恵
応用分子化学科	4年生	大 場 正 博
〃	4年生	徳 光 絵 里
〃	4年生	中 西 奏 子
〃	4年生	中 森 梨 緒
〃	4年生	橋 本 洋 典
マネジメント工学科	4年生	小 中 貴 寛
〃	4年生	芹 澤 翔 子
〃	4年生	辻 野 早 希

マネジメント工学科	4年生	橋 本 淳 史
〃	4年生	引 地 沙 穂 子
数理情報工学科	4年生	齋 藤 晴 樹
〃	4年生	椎 名 秀 昌
〃	4年生	中 野 伸 哉
〃	4年生	生 井 俊 祐
〃	4年生	宮 島 香 里
環境安全工学科	4年生	清 水 翔 太
〃	4年生	森 谷 文 暁
〃	4年生	和 久 井 冬 樹
創生デザイン学科	4年生	久 保 田 拓 也
〃	4年生	小 松 宏 美
〃	4年生	塚 田 千 晴
〃	4年生	横 田 安 紀

生産工学部による表彰学生

学部長賞・研究科長賞 (4名)

学術・文化部門 (1名)

数理情報工学専攻 M2 竹田 怜平

●京都・花灯路推進協議会「第6回創作灯デザインコンペ」において作品名「京人」が最優秀賞(応募作品数27件中1位)に選出。：平成26年3月14日表彰

●一般社団法人日本建築学会「形態創生コンテスト2013」においてグループ作品「Inside-out」が優秀作品(エントリー34件、応募作品数21件中2件)に選出。：平成25年10月31日表彰

体育部門 (3名)

柔道部

機械工学科 4年生 弘實 賢治

平成25年6月23日に講道館で行われた第54回全日本理工科学生柔道優勝大会団体戦において優勝。

応用分子化学科 4年生 根本 祥史

平成25年6月23日に講道館で行われた第54回全日本理工科学生柔道優勝大会団体戦において優勝。

マネジメント工学科 4年生 池亀 弘崇

平成25年6月23日に講道館で行われた第54回全日本理工科学生柔道優勝大会団体戦において優勝。

精励賞 (52名)

学術・文化部門 (44名)

機械工学専攻 M2 青木 貴志

日本液体微粒化学会における講演で、発表題目「気孔率を増大させた固体酸化物燃料電池燃料極上への電解質材料の静電噴霧堆積およびその性能試験結果」が優秀講演賞を受賞。(対象者数50名中、受賞者5名)：平成25年12月20日表彰

機械工学専攻 M2 平野 拓実

2014年11月に韓国で開催された第17回次世代自動車技術に関する国際シンポジウムにおいてBest student paper awardを受賞。(15名中1名)また2014年12月に開催された日本機械学会交通物流部門大会において交通物流部門表彰(優秀講演発表賞)を受賞。(表彰式が3/18のため詳細不明。通常は約100名中4名程度)

機械工学科 4年生 下瀬 あかり

ビークルオートメーション研究会ADVANTY2014シンポジウムにおけるショットガン&ポスターセッションで発表題目「ニューラルネットワークを用いた小型NIRS-BCIシステムの開発」が優秀発表賞を受賞。(応募者数15名中、受賞者2名)：平成26年12月2日表彰

土木工学科 4年生 阿部 勇太

土木工学科構造研究室の一員として平成26年8月30日に開催された土木学会関東支部主催による第20回(土木学会100周年記念杯)土木系学生によるコンクリートカ

ヌー大会に出場し、競漕の部(大学・高専の部)1位となった。(大学・高専13チーム中1位)

土木工学科 4年生 石塚 祥悟

土木工学科構造研究室の一員として平成26年8月30日に開催された土木学会関東支部主催による第20回(土木学会100周年記念杯)土木系学生によるコンクリートカヌー大会に出場し、競漕の部(大学・高専の部)1位となった。(大学・高専13チーム中1位)

土木工学科 4年生 風間 孝章

土木工学科構造研究室の一員として平成26年8月30日に開催された土木学会関東支部主催による第20回(土木学会100周年記念杯)土木系学生によるコンクリートカヌー大会に出場し、競漕の部(大学・高専の部)1位となった。(大学・高専13チーム中1位)

土木工学科 4年生 佐藤 佑樹

土木工学科構造研究室の一員として平成26年8月30日に開催された土木学会関東支部主催による第20回(土木学会100周年記念杯)土木系学生によるコンクリートカヌー大会に出場し、競漕の部(大学・高専の部)1位となった。(大学・高専13チーム中1位)

土木工学科 4年生 高橋 皓之輔

土木工学科構造研究室の一員として平成26年8月30日に開催された土木学会関東支部主催による第20回(土木学会100周年記念杯)土木系学生によるコンクリートカ

ヌー大会に出場し、競漕の部(大学・高専の部)1位となった。(大学・高専13チーム中1位)

土木工学科 4年生 平林 秋彦

土木工学科構造研究室の一員として平成26年8月30日に開催された土木学会関東支部主催による第20回(土木学会100周年記念杯)土木系学生によるコンクリートカヌー大会に出場し、競漕の部(大学・高専の部)1位となった。(大学・高専13チーム中1位)

土木工学科 4年生 船崎 貴久

土木工学科構造研究室の一員として平成26年8月30日に開催された土木学会関東支部主催による第20回(土木学会100周年記念杯)土木系学生によるコンクリートカヌー大会に出場し、競漕の部(大学・高専の部)1位となった。(大学・高専13チーム中1位)

土木工学科 4年生 保坂 吉星

土木工学科構造研究室の一員として平成26年8月30日に開催された土木学会関東支部主催による第20回(土木学会100周年記念杯)土木系学生によるコンクリートカ

土木工学科 4年生 峯田 光成

土木工学科構造研究室の一員として平成26年8月30日に開催された土木学会関東支部主催による第20回(土木学会100周年記念杯)土木系学生によるコンクリートカ

ヌー大会に出場し、競漕の部(大学・高専の部)1位となった。(大学・高専13チーム中1位)

建築工学専攻 M2 柏木 英佑

2013年度日本建築学会設計競技「新しい建築は境界を乗り越えようとするところに現象する(課題)」においてタイトル「つなぐまち、つながるまち」が中国支部入選。全国応募数323作品中、中国支部入選9作品)：平成26年1月23日表彰

建築工学専攻 M2 香山 未来

2013年度日本建築学会設計競技「新しい建築は境界を乗り越えようとするところに現象する(課題)」においてタイトル「うごくまち、かわるまち」が関東支部入選。全国応募数323作品(関東支部応募数65作品、支部入選13作品)：平成25年8月30日表彰

建築工学専攻 M2 菊地 啓太

日本建築学会関東支部第15回提案競技「美しいまちをつくる、むらをつくる(課題)」においてグループ作品「共に生きる・活きる暮らし」が最優秀賞を受賞。(応募作品数20作品中、1位)：平成25年11月17日表彰

建築工学専攻 M2 小林 拓人

日本建築学会関東支部第15回提案競技「美しいまちをつくる、むらをつくる(課題)」においてグループ作品「共に生きる・活きる暮らし」が最優秀賞を受賞。(応募作品数20作品中、1位)：平成25年11月17日表彰

建築工学専攻 M2 小山 光香

●第2回大東建託賃貸住宅コンペ「新たな賃貸住宅を考える」においてグループ作品「そうだ、ばらばらに住もう。～好きな部屋を、欲しいように～」が学生特別賞を受賞。(応募作品数557作品中、受賞数24作品)：平成26年2月1日表彰
●2013年度日本建築学会設計競技「新しい建築は境界を乗り越えようとするところに現象する(課題)」においてタイトル「つなぐまち、つながるまち」が中国支部入選。全国応募数323作品中、中国支部入選9作品)：平成26年1月23日表彰

建築工学専攻 M2 佐藤 愛

2013年度日本建築学会設計競技「新しい建築は境界を乗り越えようとするところに現象する(課題)」においてタイトル「うごくまち、かわるまち」が関東支部入選。全国応募数323作品(関東支部応募数65作品、支部入選13作品)：平成25年8月30日表彰

建築工学専攻 M2 高崎 智代

2013年度日本建築学会設計競技「新しい建築は境界を乗り越えようとするところに現象する(課題)」においてタイトル「うごくまち、かわるまち」が関東支部入選。全国応募数323作品(関東支部応募数65作品、支部入選13作品)：平成25年8月30日表彰

建築工学専攻 M2 玉川 左京

2013年度日本建築学会設計競技「新しい建築は境界を乗り越えようとするところに現象する(課題)」においてタイトル「つなぐまち、つながるまち」が中国支部入選。全国応募数323作品中中国支部入選9作品)：平成26年1月23日表彰

建築工学専攻 M2 長崎 透

2013年度日本建築学会関東支部「優秀研究報告集・若手優秀研究報告賞」の選考において研究報告「長方形銅管およびCFT部材の圧縮特性」が若手優秀研究報告賞を受賞。：平成26年3月24日表彰

建築工学専攻 M2 樋口 咲子

日本建築学会関東支部第15回提案競技「美しいまちをつくる、むらをつくる(課題)」においてグループ作品「共に生きる・活きる暮らし」が最優秀賞を受賞。(応募作品数20作品中、1位)平成25年11月17日表彰

建築工学専攻 M2 牧野 内信

2013年度日本建築学会設計競技「新しい建築は境界を乗り越えようとするところに現象する(課題)」においてタイトル「生業のつくりだす情景は海の上に」が四国支部入選。全国応募数323作品中、支部入選78作品)

建築工学専攻 M2 渡邊 啓生

2013年度日本建築学会関東支部第15回提案競技「美しくまちをつくる、むらをつくる」[「世田谷の花や農と共にある暮らしの風景」においてグループ作品が建築・まちづくり提案の部(課題：「農のある都市の風景」―世田谷のすまいと農の共生―)で佳作を受賞。(応募作品数30作品中、佳作8作品)：平成25年11月17日表彰

建築工学科 4年生 石井 健太

日本建築学会関東支部第16回提案競技「美しいまちをつくる、むらをつくる(課題)」においてグループ作品「歴史を繋ぎ都市に団聚を育む―拠点を感じる人の暮らし―」

が佳作を受賞。(応募作品数22作品、入賞8作品)：平成26年11月23日表彰

建築工学科 4年生 石坂 俊樹

日本建築学会関東支部第16回提案競技「美しいまちをつくる、むらをつくる(課題)」においてグループ作品「歴史を繋ぎ都市に団聚を育む―拠点を感じる人の暮らし―」が佳作を受賞。(応募作品数22作品、入賞8作品)：平成26年11月23日表彰

建築工学科 4年生 上田 将人

2014年度日本建築学会支部共通事業設計競技「建築のいのち(課題)」においてグループ作品「+コンテナ」がタジマ奨励賞を受賞。(応募数293作品中、支部入選67作品、タジマ奨励賞9作品)：平成26年9月12日表彰

建築工学科 4年生 大滝 優人

日本免震構造協会創設20周年記念事業学生アイデアコンペ「免震・制震はもう古い?～生き延びる建築・街づくり(応募課題)」においてHASHIRA HOUSE」が佳作受賞。(応募総数19件、優秀賞2件、佳作2件、特別賞1件)：平成26年5月表彰

建築工学科 4年生 岡田 遼

●2014年度日本建築学会支部共通事業設計競技「建築のいのち(課題)」においてグループ作品「+コンテナ」がタジマ奨励賞を受賞。(応募数293作品中、支部入選67作品、タジマ奨励賞9作品)：平成26年9月12日表彰
●2013年度キッチン空間アイデアコンテスト「団らんキッチン空間」において作品「住まいの舞台所」が奨励賞を受賞。(応募作品数257作品中、奨励賞10作品)：平成26年1月16日表彰
●第2回大東建託賃貸住宅コンペ「新たな賃貸住宅を考える」においてグループ作品「そうだ、ばらばらに住もう。～好きな部屋を、欲しいように～」が学生特別賞を受賞。(応募作品数557作品中、受賞数24作品)：平成26年2月1日表彰

建築工学科 4年生 加藤 裕太

第2回大東建託賃貸住宅コンペ「新たな賃貸住宅を考える」においてグループ作品「そうだ、ばらばらに住もう。～好きな部屋を、欲しいように～」が学生特別賞を受賞。(応募作品数557作品中、受賞数24作品)：平成26年2月1日表彰

建築工学科 4年生 金子 拓也

日本免震構造協会創設20周年記念事業学生アイデアコンペ「免震・制震はもう古い?～生き延びる建築・街づくり(応募課題)」においてHASHIRA HOUSE」が佳作受賞。(応募総数19件、優秀賞2件、佳作2件、特別賞1件)：平成26年5月表彰

建築工学科 4年生 穴倉 百合奈

●2014年度日本建築学会支部共通事業設計競技「建築のいのち(課題)」においてグループ作品「+コンテナ」がタジマ奨励賞を受賞。(応募数293作品中、支部入選67作品、タジマ奨励賞9作品)：平成26年9月12日表彰
●2013年度日本建築学会関東支部第15回提案競技「美しくまちをつくる、むらをつくる」[「世田谷の花や農と共にある暮らしの風景」においてグループ作品が建築・まちづくり提案の部(課題：「農のある都市の風景」―世田谷のすまいと農の共生―)で佳作を受賞。(応募作品数30作品中、佳作8作品)：平成25年11月17日表彰

建築工学科 4年生 白旗 勇太

2014年度日本建築学会支部共通事業設計競技「建築のいのち(課題)」においてグループ作品「+コンテナ」がタジマ奨励賞を受賞。(応募数293作品中、支部入選67作品、タジマ奨励賞9作品)：平成26年9月12日表彰

建築工学科 4年生 杉澤 宏哉

日本免震構造協会創設20周年記念事業学生アイデアコンペ「免震・制震はもう古い?～生き延びる建築・街づくり(応募課題)」においてHASHIRA HOUSE」が佳作受賞。(応募総数19件、優秀賞2件、佳作2件、特別賞1件)：平成26年5月表彰

建築工学科 4年生 柝磨 優樹

第1回大東建託賃貸住宅コンペ「風景をつくる賃貸住宅」においてグループ作品「You me 庭」が学生特別賞を受賞。(応募作品数483作品中、受賞数22作品)：平成25年2月2日表彰

建築工学科 4年生 冨田 真

日本建築学会関東支部第16回提案競技「美しいまちをつくる、むらをつくる(課題)」においてグループ作品「歴史を繋ぎ都市に団聚を育む―拠点を感じる人の暮らし―」が佳作を受賞。(応募作品数22作品、入賞8作品)：平成26年11月23日表彰

建築工学科 4年生 三成 俊輝

日本建築学会関東支部第16回提案競技「美しいまちをつくる、むらをつくる(課題)」においてグループ作品「歴史を繋ぎ都市に団聚を育む―拠点を感じる人の暮らし―」が佳作を受賞。(応募作品数22作品、入賞8作品)：平成26年11月23日表彰

応用分子化学専攻 M2 大野 真知嗣

2014年3月に開催された日本海水学会第5回学生研究発表会において、「N2ファインバブルを用いた貧溶媒品析法によるα型インドメタシンの生成促進」と題したポスター発表において優秀賞を受賞。(発表件数41件中、優秀賞8件)：平成26年3月6日表彰

応用分子化学専攻 M2 白石 裕太郎

2013年5月に本学部で開催された平成25年度分離技術会年会において、「101.3kPaにおけるEthyl tert-butyl ether(ETBE)+Ethanol+2,2,4-Trimethylpentane系の定圧気液平衡測定」と題したポスター発表において奨励賞を受賞。(応募総数101件中、奨励賞6件)：平成25年5月25日表彰

数理情報工学専攻 M2 熊谷 正徳

一般社団法人日本建築学会「形態創生コンテスト2013」においてグループ作品「Inside-out」が優秀作品(エントリー34件、応募作品数21件中2件)に選出。：平成25年10月31日表彰

数理情報工学専攻 M2 島田 英里子

一般社団法人日本建築学会「形態創生コンテスト2013」においてグループ作品「Inside-out」が優秀作品(エントリー34件、応募作品数21件中2件)に選出。：平成25年10月31日表彰

数理情報工学専攻 M2 関谷 駿

一般社団法人日本建築学会「形態創生コンテスト2013」においてグループ作品「Inside-out」が優秀作品(エントリー34件、応募作品数21件中2件)に選出。：平成25年10月31日表彰

数理情報工学科 4年生 田中 和幸

2014年3月に開催された第76回情報処理学会全国大会において、「マルチエージェントモデルを用いた災害時避難方法検討支援用システムの開発」と題した論文発表において学生奨励賞を受賞。(応募論文数約1200件[内学生の発表件数は非公刊]中、受賞論文数219件)：平成26年3月13日表彰

環境安全工学科 4年生 長谷川 高平

野村総合研究所主催の第9回NRI学生小論文コンテストにおいて「日本品質の水道整備に向けた基盤構築―国内外の自治体と企業の共同による水ビジネスの展開―」と題した論文が奨励賞を受賞。(応募総数883件のうち大学生の部159件。大学生の部において大賞1件、優秀賞1件、特別審査員賞1件、奨励賞9件)：平成26年12月20日表彰

体育部門 (7名)

弓道部 (3名)

土木工学科 4年生 佐藤 翔太

第31回千葉県学生弓道選手権大会男子団体優勝：平成25年5月4日表彰

建築工学科 4年生 小野 裕馬

第31回千葉県学生弓道選手権大会男子団体優勝：平成25年5月4日表彰

マネジメント工学科 4年生 森 勝史

第31回千葉県学生弓道選手権大会男子団体優勝：平成25年5月4日表彰

卓球部 (3名)

電気電子工学科 4年生 佐野 航平

平成26年度日本大学体育大会卓球協議会団体優勝

数理情報工学科 4年生 仁井 貴大

平成24年度日本大学体育大会卓球協議会団体優勝

平成26年度日本大学体育大会卓球協議会団体優勝

創生デザイン学科 4年生 齋藤 健一

平成26年度日本大学体育大会卓球協議会団体優勝

バスケットボール部 (1名)

創生デザイン学科 4年生 鈴木 貴司

平成25年度日本大学体育大会バスケットボール競技会において優秀選手賞受賞

功労部門 (1名)

マネジメント工学科 4年生 小中 貴寛

平成25年度桜泉祭実行委員会委員長

第7回 風力発電コンペ

第7回風力発電コンペ WINCOM2014は、平成26年11月2日(日)に36チームが参加して開催されました。参加者の皆さまありがとうございました。

今回の結果を発表いたします(氏名の敬称略)。

【発電量部門】

中学・高校生の部

最優秀賞 システム名称「凨」

山形県立村山産業高等学校
指導教員：吉田 幸宏 / 代表者：清野 智史

優秀賞 システム名称「Brand New Wind 2014 TypeB」

栃木県足利工業大学付属高等学校
指導教員：近藤 隆重、西牧 宏之 / 代表者：黒崎 拓海

優秀賞 システム名称「SIMOFUSA WIND-POWER '14」

千葉県立下総高等学校
指導教員：高梨 和美 / 代表者：牧田 誠也

デザイン賞 システム名称「激風力君」

千葉県立下総高等学校
指導教員：高梨 和美 / 代表者：大橋 政典

デザイン賞 システム名称「Yonezawa All Blacks 「TRY」」

山形県立米沢工業高等学校
指導教員：増 佳彦 / 代表者：小野田 光太

デザイン賞 システム名称「INSMAX 3」

山形県立山形工業高等学校
指導教員：櫻井 晋弥 / 代表者：沼澤 卓実

WINCOM2014



アイデア賞 システム名称「J」

千葉県立流山南高等学校
指導教員：吉垣 俊一 / 代表者：小林 達彦

アイデア賞 システム名称「とある僕らの小型風車Ⅱ」

東京都立小石川中等教育学校
指導教員：田代 卓哉 / 代表者：佐藤 圭一郎

オープン参加の部

優秀賞 システム名称「マフレ・カゼガキタⅢ号」

茨城県 / 代表者：北見 弘

日本大学生産工学部校友会賞 システム名称「いその☆すゐへい」

日本大学生産工学部機械工学科 / 代表者：久保 諒

日本風力エネルギー学会賞 システム名称「FootPrint2014」

山形県立村山産業高等学校 / 代表者：吉田 幸宏

キャンパスガイド 表紙デザインコンペ

2015年度版生産工学部キャンパスガイド表紙デザインの募集が、平成26年9月30日(火)から行われました。

応募作品は10月29日(水)から11月2日(日)まで39号館1階ギャラリーに展示され、11月2日(日)に公開審査が行われました。

応募総数49作品の中から、最優秀賞に建築工学科4年の岩崎耕平さんの作品が選出され、2015年度のキャンパスガイドの表紙として採用されました。また、下記の皆さんが各賞を受賞されました。

受賞名	作品名	製作者	所属学科(専攻)・学年
最優秀賞	10色の桜	岩崎 耕平	建築工学科4年
優秀賞	Town for college students	岡田 遼	建築工学科4年
佳作	化学変化	古山 瑛美里	創生デザイン学科2年
佳作	未来への希望	新堂 健徒	建築工学科4年
佳作	「2015」	小暮 亮太	建築工学専攻2年
佳作	みあげる	山崎 健太	創生デザイン学科3年
佳作	Create creative creation	飯島 侑樹	創生デザイン学科1年
佳作	集い	鈴木 貴司	創生デザイン学科4年
校友会賞	さくらの集い	高橋 謙太	建築工学専攻1年
佳作	Letter	稲垣 江莉	建築工学科3年
佳作	We are to act voluntarily	～私たちは自ら進んで行動する～ 大平 晃司	建築工学専攻1年



受賞名	作品名	製作者	所属学科(専攻)・学年
校友会賞	転機の意味である『桜』、日本大学を代表する『桜』、生産工学部の『桜』。	加藤 絵理	建築工学専攻2年
佳作	日の丸	横田 安紀	創生デザイン学科4年
佳作	たまご	前原 良平	創生デザイン学科3年
佳作	ミライへのミチシルベ	日野 一貴	建築工学科3年
佳作	さくら・はらはらーIndividuality to danceー	金戸 亮	創生デザイン学科4年
佳作	光	竹之内 博子	建築工学科3年
佳作	CITは宝石箱	橋爪 陽一郎	創生デザイン学科1年
佳作	記憶	清水 将通	建築工学科4年
佳作	ヒラメキー開く芽は樹へー	照沼 翔平	創生デザイン学科4年
佳作	全ての道は未来に通じている	中野 由香	建築工学専攻2年
佳作	CITでは小さな点は線で繋がりが、やがて形を生む	島崎 翔	建築工学専攻1年

川岸研究室チームによる設計デザインをもとに
大久保商店街の「お休み処」がリニューアル

大久保商店街の「お休み処」が「商学交流連携センター(新お休み処)」としてリニューアルされ、平成26年12月15日、改装記念式典が執り行われました。リニューアルは日本大学生産工学部創生デザイン学科川岸教授をはじめとした川岸研究室チームによる設計デザインをもとに行われました。

改装記念式典では、大久保商店街協同組合三橋理事長をはじめ、宮本泰介志野市長、小林鷹之衆議院議員、東邦大学 山崎純一学長をはじめとした執行部の方々、日本大学生産工学部 逆井事務局長をはじめ事務四役、建築工学科 広田教授(学生担当)、創生デザイン学科 川岸教授等々多くの出席者が「商学交流連携センター(新お休み処)」の開設をお祝いし、東邦大学付属東邦中学校・高等学校 山岸良二先生による記念講演「大久保の町と商店街の興隆～地元大久保100年の変遷を追う～」も行われました。



平成27年度行事予定

行事	2～4年次：津田沼校舎	1年次：実務校舎	大学院	備考
開講式	4月1日(水) [津田沼校舎]		4月1日(水)	
ガイダンス	4月2日(木)～7日(水) ※応化2・3年 4/1(水)から ※教職課程 4/3(金)	4月1日(水)～7日(火) ※教職課程 4/6(月)	4月1日(水)	4/2にブレースメントテスト(1年次生)・学力テスト(2年次生)4/7にTOEIC Bridge(1年次生)を実施
入学式		4月8日(水)		日本武道館
前期授業開始	4月9日(木)			4/30(木)、5/1(金)、2(土)休校
定期健康診断	4月6日(月)、4月7日(火)、4月9日(木)、4月10日(金)			
父母懇談会(春季)	4月25日(土)			
祝祭日通常授業日(前期)	4月29日(水・祝)、7月20日(月・祝)			
スポーツ大会	5月16日(土)			
女子中高生のためのキャンパスカフェ	6月14日(日)			
大学院入学試験(第1期)・校内選考		7月4日(土)		
オープンキャンパス	7月19日(日)、8月1日(土)、2日(日)			
前期授業終了	7月29日(水)			学部、大学院：7/18、25、30、31は試験/授業予備日
補講	土曜日適宜実施			他校日、スポーツ大会大会等他の行事のある日を除く
夏季休業	8月1日(土)～9月16日(水)※応用分子化学科1・2・3年のみ9/15(火)まで	7月30日(木)～9月16日(水)		
前期追試験	9月10日(木)、11日(金)			
AO入学試験	9月12日(土)、13日(日)			
後期ガイダンス	9月17日(木)※応用分子化学科1・2・3年のみ9/16(水)、17(木)	9月17日(木)		
後期授業開始	9月18日(金)			
祝祭日通常授業日(後期)	9月21日(月・祝)、23日(水・祝)、10月12日(月・祝)、11月23日(月・祝)			
卒業式・修了式・学位記伝達式(9月)	9月24日(木)	9月24日(木)		
父母懇談会(秋季)	9月26日(土) 津田沼校舎			10月17日(土) 地方別実施
創立記念日の休日	10月3日(土)、記念日は10月4日(日)			休校
編入学試験(2年次・3年次)	10月10日(土)			
外国人留学生入学試験(第1期)	10月10日(土)	10月10日(土)		
帰国生入学試験	10月10日(土)			
校友子女入学試験	10月10日(土)			
学部祭(桜泉祭)	10月31日(土)、11月1日(日)			10/30(金)準備日・11/2(月)片付日
オープンラボ	10月31日(土)			
風力発電コンペ(WINCOM2015)	11月1日(日)			
指定校制推薦入学試験	11月14日(土)			
提携校推薦入学試験	11月14日(土)			
保健体育審議会推薦入学試験	11月14日(土)			
トップアスリート推薦入学試験	11月14日(土)			
附属高等学校等推薦入学試験	11月15日(日)			
博士論文提出期日			11月20日(金)	
一般入試対策講座	11月29日(日)			
学術講演会	12月5日(土)			
公募制推薦入学試験	12月12日(土)			
冬季休業	12月24日(木)～1月8日(金)			
後期授業終了	1月29日(金)			学部、大学院：1/27、28、2/3、4は試験/授業予備日
補講	土曜日適宜実施			入学試験、卒業式、学位記伝達式等他の行事のある日を除く
大学入試センター試験(C方式)	1月16日(土)、17日(日)			
修士論文概要(初稿)提出期日		1月21日(木)		
一般入学試験	N1方式	2月1日(月)		
	A1方式	2月2日(火)		
	A2方式	2月9日(火)		
	A3方式	2月19日(金)		
後期追試験	2月10日(水)、12日(金)			
修士論文提出期日		2月22日(月)		
転科試験(2年次)	3月1日(火)			
外国人留学生入学試験(第2期)	3月5日(土)	3月5日(土)		
大学院入学試験(第2期)		3月5日(土)		
卒業式・修了式・学位記伝達式	3月25日(金)	3月25日(金)	日本武道館	

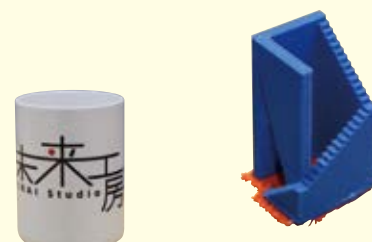
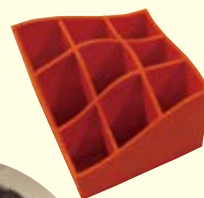
個人情報の取扱い告知文

入学手続時及び在学中に収集する学生本人及び保証人の氏名、住所、生年月日及びその他の個人情報は、学籍・成績管理、教育、学生生活支援、学費の案内、図書館利用、就職支援等及びこれらの業務に付随する学生及び保証人への連絡・通知・掲示等、本大学の教育事業に必要な範囲で利用します。

また、これらの業務の一部を業者に委託する場合があります。この場合、当該業務の委託を受けた業者は、上記利用目的の達成に必要な範囲を超えて個人情報を利用することはありません。

なお、本大学では、学生への教育・指導をより適切に行うため、保証人に対して学生の学業成績及び出席状況等の開示並びに履修状況等についての相談を行う場合があります。

(問合せ先) 生産工学部教務課・学生課



産業界に最も近い位置にある大学として、生産工学部では「ものづくり」を原点に教育を行っています。未来工房は、具体的に「ものづくり」の楽しさや創造力を学ぶ施設として、さまざまな設備を備えています。各種の機械や道具を使うことによって技能の向上と、発想上の技術的理解力を育みます。

SPRING

日本大学生産工学部 2015年3月20日発行

No.
104

- 学部長メッセージ 卒業生に贈るお祝いメッセージ
- 海外留学特集 留学のすゝめ
アドバイス/体験談
- 2014年の就職状況と2015年の展望
- 就職活動体験記
- 学科ニュース
- 連載/卒業生インタビュー
株式会社 水澤工務店 執行役員 工事部長 川嶋健史氏
- 平成26年度表彰学生
- CAMPUS NEWS
- 平成27年度行事予定表



スプリング

SPRING No.104

(日本大学生産工学部だより)

平成27年3月20日発行

編集・発行 日本大学生産工学部 広報委員会

本誌に関する照会その他は下記をお願いします。

〒275-8575 千葉県習志野市泉町 1-2-1 日本大学生産工学部 庶務課

電話 047-474-2201 FAX 047-479-2432

E-mail : cit.info.shomu@nihon-u.ac.jp

http://www.cit.nihon-u.ac.jp/